

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準入 () 試験					原位試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																	(N 値 ~ 深度) 図																										
31				明掲灰	Dg	Vg	cg	2		30.24m: 傾斜60°で幅2mmの褐色の硬質な粘土を断片的に挟む。上端側幅5mmにマンガン濃染部を伴う。 30.74mの傾斜90~85°で湾曲した割れ目と30.85mの傾斜55°の割れ目で囲まれた部分は層間より風化が進み砂状化する。 30.85m: 傾斜55°の割れ目は風化でにぶい黄褐色の幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	CL'																																
32				花崗斑岩	Eg	Vg	cg	6		32.30m: 傾斜60°の割れ目は幅1mmのにぶい黄褐色の軟質粘土脈を挟み、交差する傾斜30°の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.63m: 傾斜55°の割れ目は幅1~2mmの褐色の軟質粘土脈を挟むが、不連続である。これと直交する傾斜45°の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 32.63~33.30m: 割れ目は残留する。 33.00~33.30m: 割れ目、低密着割れ目に沿ってマンガン鉱染で黒褐色化する。																																	
33				明掲灰	Dg	Vg	cg	3		33.30~34.23m: 原岩組織と割れ目はほぼ消滅する。全体に傾斜40~50°で幅1~8mmの軟質なにぶい黄褐色粘土脈が分布する。 33.40~34.23m: 傾斜40~50°の割れ目及び低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なにぶい黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。 33.91m: 傾斜32°で幅2~8mmの径1~2mmの石英粒や径5mmの風化~粘土化した岩片を含むやや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。 34.17~34.23m: マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 ●34.23~34.52m: 破碎部 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端50°、下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。また、34.30mには傾斜30°で幅1~2mmのやや軟質な灰黄色粘土脈を伴うせん断面がある。	CL'																																
34				明掲灰	Dg	Vg	cg	3		34.39~34.40m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端55°、下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に灰黄褐色を呈する。 34.52~35.81m: 傾斜30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。35.14~35.27mでは傾斜40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟むことが多い。 34.60m: 傾斜60°で幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。 34.80~34.95m: マンガンや灰白色粘土が網目状に分布する。	CL'																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記	コ	ア	取	率	岩	級	区	分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																								
																			(N 値 ~ 深度) 図																																							
			花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	3		35.81~36.53m: 一部、硬質部も含み全体がやや硬質である。傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	0	50	100	R	Q	D	D	L	[%]																																								
36									IVg													36.53~36.82m: 傾斜60~70°の割れ目。低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、コアは岩片状となる。																																				
37									Vg											γ	36.67m: 傾斜50°の割れ目の上端側は幅5~10mmで緑泥石化により淡緑灰色化するが、粘土は伴わない。径0.5mm以下の微細な白雲母や金属鉱物が露出する。																																					
									Cg											IVg	2	36.82~44.01m: 傾斜40~60°の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する60~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色~風化した明黄褐色粘土を伴うが、分布は少ない。																																				
38			Cg	IVg	2	37.69m: 傾斜80°の割れ目は、37.77m付近で傾斜45°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目には幅1mm以下の不連続な黄褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																																				
			花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	δ		38.34~38.41m: 傾斜45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に分布し岩片化する。38.38~38.41mでは傾斜40°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色粘土脈を挟み、粘土脈間隙が淡緑灰色化する。	0	50	100	R	Q	D	D	L	[%]																																								
									Vg											γ	38.41~38.72m: 傾斜40°の割れ目周辺が風化~褐色化する。																																					
39					Vg				39.53m: 傾斜40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。																																																	
									39.82m: 傾斜45°で幅5mmの軟質ないし硬質の白色粘土脈を挟む。間隙幅数mmは褐色化が顕著である。																																																	

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	(標準貫入) 試験					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ビ ッ ト	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																													
													(N 値 ~ 深 度) 図																																												
41			+						40.61m: 傾斜45°の割れ目の下端側の一部は幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅2mmの石英脈を伴う。	0 50 100			0	10	20	30	40	50																																							
42									Cg																						IVg	γ	2	40.87~44.01m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目面は薄く褐色化するのみで砂状化は伴わない。一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが、分布は少ない。	7 [8]	13 [13]	8 [9]	CL																			
																																		41.40m・45°、41.57m・50°の割れ目は、いずれもほぼ直交する傾斜55°の割れ目を止めている。いずれの割れ目にも挟在物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																						12 [12]	
																																		41.50~44.30m: 一部の割れ目と割れ目に近いマンガン鉱染が見られ、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。																							11 [11]
																																		42.04m: 傾斜58°で幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に幅2mmの灰白色の硬質な粘土脈、幅2mmのぶい黄褐色の軟質な粘土脈をそれぞれ挟む。 42.19m: 傾斜20°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。																							
43			Dg	Vg	δ	43.08m: 傾斜45°で幅8~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。粘土化などの劣化は伴わない。 43.14m: 傾斜40°で幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土脈を挟む。	12 [12]																																																		
44						Cg																						IVg	γ	43.60m・60°と43.61m・60°の割れ目に囲まれ、径2~5mmに細片~砂状化する。上端側の割れ目の一部に幅1mmの灰黄色の硬質な粘土が付着する。	11 [11]																										
							44.29~47.37m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する傾斜60~80°の割れ目も分布する。上記割れ目と同系統の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化した。粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは硬質粘土化部で軟質である。 44.49m: 傾斜50°の割れ目は一部珪化と緑泥石化による淡緑灰色化を伴う。また、径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。 44.91m: 傾斜52°で幅2~3mmの軟質な明黄褐色粘土を挟む。	11 [11]																																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													(N値~深度) 図																	
46			花崗斑岩	明褐灰					45.32m: 傾斜55°の割れ目沿いの幅約5mm前後が緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	0	CL'																			
47									45.57m: 傾斜55°の割れ目は、交差する60°と80°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	10																				10
48									45.80~45.97m: 傾斜70°の低密着割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	8																				8
									46.23m: 傾斜57°で幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈を挟む。	8																				8
									46.28m: 傾斜50°の割れ目沿い幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。	8																				8
									46.53~46.60m: 上端45°で直線的にシャープに連続。下端40°で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」の岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃集部である。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟在や含まれる岩片の走向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐灰~黒褐色を呈する。幅40mm以上。	8																				8
									46.87~46.92m: 傾斜40~60°の割れ目沿いのマンガン鉱染が著しく、黒褐色化する。	8																				8
									47.20m: 傾斜50°の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着する。	8																				8
49			47.37~47.66m: 傾斜50°の直線的にシャープな割れ目が4本平行に分布し、これに斜交~直交する30~80°の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	5	5	CM'																								
			47.52m: 傾斜50°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化する。	5	5																									
			47.66~48.35m: 傾斜50°前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80°の割れ目がこれらに交差する。	5	5																									
			48.11m: 傾斜75°と40°の割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分は径5mm前後の角礫状を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。	5	5	CL'																								
			48.35~49.35m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。	5	5																									
			48.39m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~径5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	5	5	CL'																								
			48.71m: 傾斜55°で幅1~2mmの軟質な明黄褐色粘土脈を挟む。	5	5																									
			49.21m: 傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	7	7	CL'																								
			49.35~49.93m: 硬さ「D」として、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目に砂や粘土などの挟在物は殆んど分布しない。傾斜50~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。	7	7																									
			49.61m: 傾斜75°の割れ目は、その下端側で7本の傾斜10~30°の割れ目を止めている。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			CL'																								
			49.71m: 傾斜50°で幅1~2mmが砂状化する。																											
			49.93~50.76m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。			CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																															
															(N値~深度) 図																																																														
		51	花崗斑岩	明褐灰		Cg	Vg	cg	2	γ	50.09~50.47m: 傾斜50~55°の割れ目に幅1~3mmで褐色の砂状化が見られる。 50.76~51.24m: 堅硬である。傾斜50~60°の割れ目主体で、50.91mに傾斜55°で幅2mmの風化砂状化部が見られる以外は割れ目の挟在物はない。 50.87m: 傾斜45°で幅2~3mmの石英脈を挟む。	CL'		0	10	20	30	40	50																																																										
		52				Dg	3	δ			51.24~52.13m: 硬質な岩片も含むが全体的にはやや硬質主体である。互いに直交する傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する傾斜70~80°の割れ目も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟質な明黄褐色の粘土脈が数箇所分布する。 51.74m: 傾斜40°で幅5mmの軟質な褐色粘土が直線的に連続する。下端割れ幅5~8mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。 51.93~52.13m: やや硬質~やや軟質で径10mm前後に細片化し、岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質粘土が付着する。 ●52.13~52.28m: 破砕部 52.13m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50°で幅4~5mmの軟質な白〜橙色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。 52.13~52.16m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で直線的にシヤーブに、下端45°で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。 52.16~52.28m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端46°、下端60°でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化〜硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土脈が網状に分布する。52.20m以降では、マンガンの浸染で黒褐色化部が多いため、粘土の存在が不明な区間がある。明褐灰〜黒褐色を呈する。 52.28~52.51m: 径5~30mmの硬さ「D」ないし「C」の角礫と硬質な砂状の基質からなる割れ目密集部で岩片化する。割れ目にマンガンの充填する。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずかである。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。 52.51m: 傾斜48°の割れ目の上端割れ幅5~20mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。 52.51~52.60m: 上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。粘土化は殆んど伴わない。 52.60~52.85m: 径10~30mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる割れ目密集部で岩片化する。上位に比べ砂状の基質は殆んど分布しない。粘土化はないが、岩片の一部は砂状化する。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。 52.72m: 傾斜45°の割れ目は多数の交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 52.85~52.93m: 上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さ「D」が残留する。傾斜45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白〜白〜い色の軟質粘土が付着する。 52.93~53.29m: 傾斜40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化する。 53.29~53.50m: 互いに交差する傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が分布する。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白〜風化による黄褐色の軟質粘土が付着する。岩片は硬さ「C」〜「D」である。 53.50~53.62m: 著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。 53.62~54.20m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土脈は挟まれないが、一部で薄く砂状化〜径2~3mmの礫状化部を挟む。礫に定向配列は見られない。 54.20m: 傾斜45°で幅3~6mmの粘土〜シルト質の砂〜礫を挟む。 54.20~55.18m: 互いにほぼ直交する傾斜50~60°の割れ目が主体で、54.83mの傾斜50°の割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土脈を挟まない。比較的割れ目は少ない。																																																																		
		53				Eg			Vg	dg	3																							γ	δ				0	10	20	30	40	50																																	
		54				Dg			Vg	cg																																														2	γ					0	10	20	30	40	50										
						Eg			Vg	dg																																																																			
						Dg	Vg	cg	2	γ																											0	10	20	30	40	50																																			
				Eg	Vg	dg	2	γ								0	10	20	30	40	50																																																								
				Dg	Vg	cg			2	γ																										0	10	20	30	40	50																																				
				Eg	Vg	dg	2	γ								0	10	20	30	40	50																																																								
				Dg	Vg	cg			2	γ																										0	10	20	30	40	50																																				
				Eg	Vg	dg	2	γ								0	10	20	30	40	50																																																								
				Dg	Vg	cg			2	γ																										0	10	20	30	40	50																																				
				Eg	Vg	dg	2	γ								0	10	20	30	40	50																																																								
				Dg	Vg	cg			2	γ																										0	10	20	30	40	50																																				
				Eg	Vg	dg	2	γ								0	10	20	30	40	50																																																								
				Dg	Vg	cg			2	γ																										0	10	20	30	40	50																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色硬調軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準入 試験					原位置試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ノズル	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													(N値~深度) 図																				
56						Bg	IVg	bg	γ		GM'		0 10 20 30 40 50																				
													57				Cg														Vg	cg	δ
58				Dg	Vg	cg	δ	3		CL'																							
													59				Eg														VIg	dg	γ
35.53	60.00				Eg	VIg	dg	δ	3																								
																	Cg														cg		

余白

H24-D1-2

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo.											1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H24-D1-2		調査位置	X:277.490, Y:897.401		北緯	35° 45' 12.77"		
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2013年 3月16日 ~ 2013年 4月4日		東経	136° 1' 4.38"
調査業者名				主任技師		現場代理人		コアダテ	ボーリング責任者
孔口標高	6.95 m	角			方位			地盤勾配	
総掘削長	33.00 m	度			水平			使用機種	試験機
								ハンマー	ポンプ
								落下用具	
								エンジン	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コアダテ率 (%)	岩級区分	岩内水位 (m)	試験					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアダテノット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															標準貫入 (N値~深度)	圧	戻	進	速								
				黒							0.00~0.31m: 盛土 0.31~2.84m: 砂礫 最大径30mmの黒色の細粒砂礫。泥岩片からなる。 0.31~2.84m: 砂礫 最大径30×60mmの角礫であるが、径10mm以下の細礫~細砂を主体とする。粒度は不均質であるが、細粒分は極少量であり、ルーズである。礫は花崗岩。アブライト主体であるが、まれに黒色泥岩を含む。																
				黄褐							2.84~6.81m: シルト質砂礫 最大径160mmの花崗岩礫が主体で、アブライト礫も見られる。シルト分を含有。上位層よりやや締まりが良い。																
				盛土							3.30~3.45m: 泥岩層が混じる。																
				明黄褐							3.82m: 径40mmのモルタル片を含む。																
				灰色							4.35m: 径50mmの炭質物片を含む。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平盤)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															0	10	20	30	40												50								
		1.05																																					
		6.81																																					
				盛土																																			
					にごい黄																																		
				花崗斑岩																																			
					にごい橙																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
															0	10	20	30	40												50					
16			+	花崗斑岩	にこい橙	Dg	IVg			2	15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し、15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また、これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 15.47m以深では、割れ目沿いに幅1~2mmで風化により褐色化する。	0	CL'																							
																																		7 (8)	100	
17			+	花崗斑岩	にこい橙	Eg	Vg			3	16.12m：傾斜60°の割れ目沿いに微小な金属鉱物が晶出す。 16.24~17.06m：コア全体が著しく軟質化するが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は、マンガンを染み受け、黒褐色化する。 16.54m：傾斜50°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目に挟在物は見られないが、幅1mm程度が風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 17.05~17.30m：径5~10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。 17.46~17.66m：径10~20mm前後に細片化する。 17.66~19.78m：上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30~60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈を挟むものがある。 18.10m：傾斜40°の割れ目に幅1~2mのマンガンを挟む。 18.21m：傾斜58°の割れ目沿いに幅1~2mmが風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出す。 18.41m：傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。	0	D'																							
																																				6 (9)
18			+	花崗斑岩	にこい橙	Dg	IVg			2	18.77m：傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 18.97m：傾斜58°の割れ目沿いがマンガンを染み黒褐色化する。 19.01~19.21m：風化残留部でやや硬質である。 19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガンを汚染により黒色化している。 19.57~19.61m：傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下層側は幅10mmでマンガンを汚染が顕著に見られる。 ●19.78~19.87m：破砕部 粘土混じり硬状部 (Hj) 上線53°、下線63°とともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。 19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 19.87~20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	0	CL'																							
19			+	花崗斑岩	にこい橙	Dg	Vg			2	18.77m：傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 18.97m：傾斜58°の割れ目沿いがマンガンを染み黒褐色化する。 19.01~19.21m：風化残留部でやや硬質である。 19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガンを汚染により黒色化している。 19.57~19.61m：傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下層側は幅10mmでマンガンを汚染が顕著に見られる。 ●19.78~19.87m：破砕部 粘土混じり硬状部 (Hj) 上線53°、下線63°とともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。 19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 19.87~20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	0	CL'																							
			+	花崗斑岩	にこい橙	Dg	Vg			4	19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 19.87~20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。																									
			+	花崗斑岩	にこい橙	Dg	IVg			2	19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 19.87~20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
																(N値~深度) 図																											
21				花崗斑岩		Dg IVg	IVg	δ								0	10	20	30	40	50																						
						IIIg	IIIg				20.59~21.50m: 直上位と同様、傾斜60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質である。 20.74~20.77m: 傾斜30°で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し、上下端は密着する。上端側には径10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。 20.90m: 傾斜65°の割れ目沿いに微細な白雲母が露出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。 21.05~21.30m: 傾斜80~90°のマンガニ鉄染を伴う低密着割れ目が2~3本分布する。 21.12m以深は斑晶が少ないアブライト様を呈する。 21.50~23.18m: 上位より割れ目がやや多くなるが、やや硬質である。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部は割れ目沿いに軟質化する。マンガニ鉄染を伴う割れ目が多い。 21.50~21.55m: 局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガニを伴う。上端の傾斜50°の割れ目には幅2~3mmの軟質な黄褐色粘土脈を挟む。 21.89m・15°~22.10m・50°の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化する。 22.10~22.39m: アブライトを挟む。上端60°下端20°で花崗斑岩との境界は明瞭である。 22.17m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。 22.21m・50°及び22.89m・85°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 22.32m: 傾斜20°で幅20mmのかり長石濃染部が母岩に密着して分布する。 23.18~24.04m: やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。一部に幅1~2mmの軟質な白~灰黄色粘土脈を挟む。 23.68m及び23.72m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 23.88m: 傾斜73°で幅4~5mmのかり長石と石英の濃染部が脈状にゆ着して分布する。 24.04~25.22m: 上位よりやや軟質化し、割れ目の一部は細片化する。傾斜20~60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガニを挟むことが多い。 24.04m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化する。 24.57~24.60m: 傾斜60°の割れ目沿いにマンガニ汚染が顕著に見られる。 24.80~24.82m: 傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し、やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。																																
22		-12.19	22.10			Eg VIg	dg	3																																			
				アブライト		Vg	cg																																				
		-12.44	22.39			Cg	IVg	bg																																			
23						Dg	Vg																																				
				花崗斑岩		IVg																																					
						Cg	IIIg																																				
							cg																																				
24						IVg																																					
						Vg																																					
						Dg	IVg																																				
							Vg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)											
														0	10	20	30	40												50										
			+				Dg Vg			25.22~26.84m: 一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	CL'																													
26							Cg IIIg		cg																															
27								Dg Vg					26.67m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場所がある。幅1mmの連続性に乏しい軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																											
								Dg Vg			IVg bg	γ 2	26.84~28.73m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質~やや軟質である。																											
28							Vg			27.30~27.32m: 上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な淡黄色粘土を挟み、全体に粘土化が進む。	CL'																													
							IVg																																	
							Vg			28.42~28.46m: 上端65°、下端55°の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴い、幅5mm前後の淡緑色が見られる。割れ目沿いに白雲母が晶出する。																														
							Cg																																	
							IIIg			28.73~30.20m: やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。																														
29							IVg																																	
							IIIg	bg		29.32~29.33m: 傾斜30° 幅10~12mmで径2~5mmのかり長石、石英が脈状に分布する。	CM'																													
										29.45m: 傾斜55°と60°の割れ目沿いはマンガン結染で径2~3mm程度の斑点状に黒化する。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														0	10	20	30	40												50								
		31	+	花崗斑岩	にぶい橙		IIIg	bg	γ	30.20~31.44m: 上位と同じ硬さで、割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30~60°の割れ目が分布する。粘土化部は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。 2 30.68~30.75m: 上下端60°で幅2mmの軟質なにぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間は、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。 31.41~31.44m: 軟質化し、マンガン結染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず。変化は認められない。 ●31.44~31.46m: 破碎部 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰白~にぶい黄橙~灰赤色を呈する。幅10~12mm。 31.46~33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30~60°の低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5~2mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を伴う。 31.70~31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン結染による黒褐色錆状部が分布する。 32.05~32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	0	CM'																										
															IVg			18	CL'																			
															Cg			182																				
															IIIg					CM'																		
															IVg																							
		32	+	花崗斑岩	にぶい橙		IIIg	cg	γ	31.41~31.44m: 軟質化し、マンガン結染も受けるが、粘土化・粘土脈等は分布せず。変化は認められない。 ●31.44~31.46m: 破碎部 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰白~にぶい黄橙~灰赤色を呈する。幅10~12mm。 31.46~33.00m: 割れ目が多くなり、傾斜30~60°の低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5~2mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を伴う。 31.70~31.80m: 傾斜30°で幅10mm程度のマンガン結染による黒褐色錆状部が分布する。 32.05~32.11m: マンガン汚染が顕著に見られる。	0																											
															Dg			16																				
															Vg			16	CL'																			
	21.63	33.00								8																												

H24-D1-4

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo.																			
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ボーリング名	H24-D1-4		調査位置	X:277.640, Y:897.400		北緯	35° 45' 12.77"												
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年 5月13日 ~ 2013年 6月10日		東経	136° 1' 4.38"											
調査業者名	[Redacted]			主任技師		現場代理人													
調査業者名				主任技師		コア指定者													
ボーリング責任者																			
孔口標高	6.95 m	角上	180°	90°	方	北	0°	東	90°	地盤勾配	水平	0°	使用機種	試験機	ハンマー	落下用具			
総掘削長	70.00 m	度下	0°	45.0°	向	北	0°	東	90°	地盤勾配	鉛直	0°	使用機種	エンジン	ハンマー	ポンプ			

標尺 (m)	深高度 (m)	柱状区分	色調	硬軟	コアカの状態	割れ目の状況	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験				孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内空率)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ピット	結核 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													0	10	20	30												40	50	
		黒褐							0.00~1.62m: 盛土 0.00~0.32m: 礫 径5~30mmの黒色砂岩からなる。																					
		にぎい褐							0.32~2.94m: 礫混じり粗砂 径3~40mmの花崗斑岩、アブライトの 歪角~歪円礫を含むルーズな粗砂か らなり、径3~10mmの礫岩を多く含む。		(100)																			
		盛土																												
		明黄褐							2.94~5.60m: 砂礫 径5~140mmの花崗斑岩、アブライト の歪角~歪円礫で、硬質なものが主 体。一部で半クサリ礫を含む。基質 は中~粗砂でやや締まる。礫率は40 ~60%であるが、5.15m以降では径10 mm前後の礫が主体である。		(100)																			
									4.06~5.12m: 径10~60mmのコンクリ ート片を含む。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
		1.56 7.62		盛土	にぶい黄橙				5.60~7.62m: 礫混じり粗砂 上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5~10mmの花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。 6.00~6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、礫量が多い。礫率は50%程度で上下に比べて締っている。 6.36~6.42m: 明赤灰色の軟質な粘土が不規則な形で分布する。透部ないし深部側への連続性はない。 7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。 7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗斑岩の粗砂からなる。																						
				花崗斑岩	にぶい橙	Dg IVg cg			7.62~17.89m: 花崗斑岩 径2~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。 7.62~9.26m: 原岩組織と割れ目は残留し、変質粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜30~60°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~80°の割れ目が交差する。風化により割れ目沿いに数mm程度砂状~小細片化する。 8.78m・60°、8.91m・65°の割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土が断続的に附着する。 9.05~9.20m: 褐色化が顕著に見られる。 9.17~9.20m: 傾斜50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化するが、砂状~粘土状などの劣化はない。 9.21~9.43m: 緑色変質が顕著である。 9.26~9.38m: 全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26~9.32mと9.36~9.38mでは、粘土混じり岩片を呈し、径5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な泥い濁(上端側)~灰白色(下端側)の粘土脈が分布する。9.32~9.34mでは、傾斜45°で幅30mm程度が更に粘土化した硬質粘土で、径3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。 9.34~9.36m: 上端45°、下端50°で断続的に連続する幅5~15mmの軟質な泥い赤褐色を呈する粘土脈を挟む。 9.38~10.76m: 全体にやや軟質で、一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかかっているが、大半の割れ目は残留し、傾斜30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目まで止まっていることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白~淡黄色粘土を挟み、一部にはマンガンを伴う。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 9.43~9.50m: 褐色化が顕著に見られる。																						
				明黄褐 明褐灰	Eg VIg dg	Vg cg					CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
																0	10	20	30	40												50													
11			花崗斑岩 明褐灰								δ 2	0	50			0	10	20	30	40	50																								
																Dg	Vg	cg																											
																Eg	Vlg	dg																											
																Vg																													
12																																													
13																																													
14																																													

標尺 (m)	標高 (m)	深 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定日	標準貫入試験 (N値～深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ノ ビ ット	給 回 送 水 量 (MPa)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)		
													(N)	(N)	(N)	(N)	(N)											
21				花崗斑岩	明褐色	IVg	γ	Ⅳg	20.60m: 傾斜70°の割れ目沿いに風化して褐色が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。	7 (9)																		
									21.00~21.66m: 割れ目は少ないが、一部で傾斜60°前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離しやすい。	18 (36)																		
22				花崗斑岩	明褐色	CG	Ⅲg	CG	21.19m・35°、21.44m・50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	10 (10)																		
									21.50m: 傾斜60°の割れ目は、21.44m・50°の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	9 (9)																		
23				花崗斑岩	明褐色	CG	δ	CG	21.66~26.78m: 傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。	11 (11)																		
									22.36~22.40m: 径15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。	8 (8)																		
24				花崗斑岩	明褐色	Dg	IVg	Dg	22.72m・45°~22.78m・50°の間は、風化で砂状化が進む。粘土は伴わない。22.78mの割れ目によって褐色化が見られる。	9 (9)																		
									23.27m: 傾斜50°で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。	8 (8)																		
24				花崗斑岩	明褐色	Dg	IVg	Dg	23.40~23.77m: 傾斜60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。	9 (9)																		
									23.76~24.00m: 傾斜70~90°の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	9 (9)																		
									24.15~24.40m: 径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。	9 (9)																		
									24.59m、25.09m、25.61m: 傾斜40~45°の割れ目沿いに幅10~20mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
26			花崗斑岩 明褐灰	Dg	IVg	cg	δ	2		25.40m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 25.41m: 傾斜55°で幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目沿いはわずかに緑色化する。 25.61m: 傾斜40°で幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 25.96m・50° ~ 26.22m・45°の間は、全体が風化で細片状~砂状が主体となる。	0	50	CL'																								
27				Eg	Vg	cg					26.78~27.75m: 低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマーの打撃で径1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。 27.16~27.22m: スライム	0	50	D'																							
28			花崗斑岩	Eg	Vg	cg	δ	4		●27.75~28.43m: 破砕部 27.75~27.91m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端20°で砂状化し不明瞭。下端15°で直線的にシャープに連続。径2~3mmの石英粒。径5~10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2~3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色。下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91~28.33m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端15°。下端53°でともに直線的でシャープに連続。幅1~5mmの灰黄~にぶい黄橙~灰白色の軟質粘土が27.91~27.96mでは10~20°で、27.96m以深では網状に分布する。全体に明褐灰~にぶい黄褐色を呈する。 28.33m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜53°で直線的にシャープに幅2~5mmの灰黄褐色の軟質な粘土からなる。 28.33~28.43m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端53°。下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。灰白~明赤灰~明黄褐色を呈する。幅60mm。 28.43~29.73m: 傾斜30~60°主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。 28.57m: 傾斜65°で幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。 29.73~30.20m: 硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	0	50	D'																								
29				灰褐	Dg	IVg	cg	γ	2				CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 回 送 水 量 (MPa)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
														(N)	(深度)																
31			花崗斑岩	灰褐	Bg	IIIg	Bg			30.20~31.03m: 低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。	12 12																				
							IVg				31.03~32.30m: 傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。																				
									Cg			31.25~31.40m: やや湾曲した傾斜80~90°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	7 10																		
										Vg	γ	31.37~31.51m: 1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。																			
32												31.75~32.30m: 傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。																			
												32.13m: 傾斜60°, 幅5~8mmで径1~3mmの鎌を含むマンガン脈を挟む。角礫化残っている部分があり、岩片は移動や回転をしていない。	9 10																		
												32.30~33.10m: 一部で硬さ「B」の硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上端部は、割れ目沿いの砂状化はないが、下端部の一部では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜60°で、32.76mに傾斜30°で幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。																			
33												33.10~33.65m: 割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。																			
												33.24m: 傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	13																		
												33.29~33.96m: 傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。	13 14																		
34												33.65~37.15m: 34.64mは浅はやや硬質主体、それ以外は硬質である。割れ目は傾斜30~50°が主体であるが、一部でこれらに斜交~直交する50~60°の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70~90°の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64mは浅では一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以外では砂状化しないものが主体である。33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の柱化した脈を挟む。																			
												34.00m: 傾斜60°で幅1~5mmの硬質白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下端部34.22m付近まで風化で軟質化する。	9 10																		
										34.57m: 45°~34.63m: 65°間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが若干砂状化する。マンガン脈染を受け黒褐色化する。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														0	10	20	30	40												50
		36	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg	bg			35.40m: 傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し, 径20~30mmに細片状を呈するが, 岩片は硬く, 砂状化や粘土化, 粘土脈は伴わない。	9	CM'																		
		37								35.90m: 傾斜80°の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが, 連続性はない。	9																			
		38		褐灰	Cg	Vg	cg		γ	2	36.30~37.20m: 傾斜75~90°の高角度割れ目が多く分布し, 所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが, 粘土化や粘土脈は挟まない。	9	CL'																	
											36.37m: 傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75~80°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが, 粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。	9																		
		39	オレンジ		IVg	bg				36.60m: 傾斜55°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布し, 38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。	9	CM'																		
										36.80~37.00m: 傾斜75~80°の高角度割れ目に幅2~4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。	9																			
										37.15~39.41m: 上位に比べ割れ目が多く, 傾斜40~50°が主体で, これに斜交~直交する60~80°の割れ目も分布する。37.15~37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟入は殆んどないが, 割れ目沿いに薄く砂状化するものもある。37.68~39.39m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟入物はない。38.95~39.41m間では割れ目が消滅することが多い。	9																			
					Dg	Vg	cg	δ	3	37.15~37.68m: マンガン鉱染を受け, 割れ目とその周辺は黒褐色化し, 全体的には褐色を呈する。	9																			
					Bg	IVg	bg	γ	2	38.12~38.20m: 割れ目沿いに褐色化するが, 岩片は劣化していない。	9																			
										38.95~39.41m: 風化と変質で軟質化する。上端25°, 下端30°で囲まれた39.34~39.41mの区間は, 傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にぶい橙色の軟質な粘土脈が多く分布する。	9																			
										39.41~40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化, 未変質で堅硬である。	9																			
										39.50m: 傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。	9																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																
															N	10	20	30	40												50															
41						Bg	bg				40.00~40.68m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。 40.24m・40°~40.28m・45°の割れ目に囲まれて、やや軟質化する。上端側はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状~粘土化は伴わない。 40.68~41.62m: 傾斜75~85°の高角度割れ目が41.00~41.53mの間でやや湾曲しながら連続する。幅5~10mm程度が砂状~径3~5mm程度の礫状を呈する。礫状部の礫に移動や回転は見られない。高角度割れ目に囲まれた区間は全体に軟質化し、高角度割れ目の一部には幅0.5mmの軟質な灰白色粘土がわずかに付着する。高角度割れ目と斜交~直交する割れ目は傾斜20~50°が主体で、傾斜70°前後の低密着割れ目も分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布しない。 40.95m: 傾斜45°で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。 41.52~41.62m: 傾斜40°と85°の割れ目に囲まれて、径5~10mmの角礫状を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着せず、角礫状部は連続しない。 41.62~42.37m: 傾斜40~50°と80°前後の低密着割れ目も多数。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55°の割れ目沿いの一部が径3~5mmで硬質細片化する。 41.92m: 傾斜40°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺に径0.1mmの金属鉱物が晶出する。 42.37~42.61m: 低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。 42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片も径10mm前後に細片化する。岩片間に軟質の白色粘土がこくわずかに付着する。 42.43m: 傾斜60°の割れ目は、交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに変位させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物には不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 42.61~43.34m: 傾斜30~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く緑褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。 43.29m: 傾斜55°で幅3~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.34~45.00m: 岩片は硬いが、低密着割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50~70°と、これに斜交~直交する30~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むものもある。 43.34m: 傾斜55°の割れ目沿いが幅2mmで砂状化し、一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 43.35m: 上記の割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。 44.67m: 傾斜65°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 44.83m: 傾斜60°の割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	CL'																																		
42						Bg	IVg	bg					CM'																																	
43						Bg	IVg																																							
44						Cg	Vg						CL'																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビーズ	給 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																							
														(N 値 ~ 深度)	図																																		
46				にぶい橙						45.00~45.45m: 傾斜60~70°の割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン結晶で薄く黒褐色化する。 45.24m: 傾斜45°で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上端側の一部は割れ目化。下端側は密着する。 45.45~46.06m: 傾斜70~80°とこれに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。 45.81m: 傾斜45°の割れ目は、直交する傾斜70°の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 46.06~46.31m: 互いに直交する傾斜50°前後の割れ目が分布する。割れ目に挟在物は伴わない。 46.31~46.67m: 傾斜40~50°の割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。 46.67~47.48m: 割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。46.85~47.00mに傾斜85°の低密着割れ目が分布する。	CL'																																						
																			47			花崗斑岩			2		47.48~47.67m: 傾斜60~85°の低密着割れ目が分布し細片化する。 47.67~48.84m: 傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、傾斜40~50°ないし60~70°の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。 48.17m: 傾斜50°で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	CH'																					
																																		48				γ	48.84~49.83m: 傾斜40~50°の割れ目。低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。	CL'									
49			緑灰					γ	2	49.83~52.07m: 傾斜20~40°の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と随意的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03~50.11m間は若干風化し、割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。	CM'																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rMPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													(N)	(m)																	
51			花崗斑岩	灰褐	緑灰 黄 緑灰					50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0	CM'																			
52											51.20m, 51.33m: 傾斜38°, 47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	50																			
53			花崗斑岩	灰褐						52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる基質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリブ灰色の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目。低密着割れ目が多く、径10~30mmに岩片化する。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 破砕部 52.97~53.05m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°, 下端50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な褐灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下端はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒。径5~10mmの一部粘土化。一部硬さ「D」の岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端はコア擾乱部で不明瞭。下端45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ「D」と粘土化した基質からなる。基質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にぶい橙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°でやや波打って漸移的に、下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。	50																				
54												53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m・55°, 53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm。幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmで方角石が露出した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方角石脈を挟む。上端側境界は割れ目化する。下端は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。	50																		

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記	記事	コア採取率 (%)	岩級	区	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチュア / ノズレット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														(N 値 ~ 深度) 図																					
														N 値																					
56		花崗斑岩	明礬灰	Dg		cg	3		55.07m: 傾斜55° で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	4	CL'	0	10	20	30	40	50																		
									Vg	2		55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。 55.41m: 傾斜55° の割れ目で、上端側の20° の割れ目、下端側の80° の割れ目がまわっている。割れ目には球状物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 55.80m: 傾斜50° で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。 56.18m・50° ~56.23m・50° の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	4	CL'	0	10	20	30	40	50															
57									Bg	IVg	bg	2		56.54~56.67m: 変質部 上端60° で直線的にシャープであるが、浅部延長部で70~90° で大きく湾曲、下端60° で1箇所屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質礫状態で全体の色調は灰白~明礬灰色で斑模様を呈する。幅10~15mmで、浅部側の56.52m付近で挟する粘土脈は2つに分岐する。 56.57~57.63m: 傾斜50~60° とこれと斜交する20~60° の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	4	CL'	0	10	20	30	40	50													
						Cg	Vg	cg			57.63~57.75m: 傾斜50~60° の割れ目。低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟質化する。 57.75~58.37m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50° の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90° の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。	4	CM'	0	10	20	30	40	50																
58						Bg		cg	2		58.37~58.85m: 傾斜20~30° の割れ目と80~90° の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。	4	CM'	0	10	20	30	40	50																
						Cg		cg			58.85~58.96m: 傾斜50° の割れ目が主体である。 58.85m: 傾斜50° の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した増形片と岩片間を埋める明礬灰色の軟質粘土からなる粘土混じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	4		0	10	20	30	40	50																
59						Bg	IVg	bg			58.96~59.47m: 傾斜50~70° の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。 59.16m: 傾斜45° の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。 59.47~60.06m: 傾斜30~50° の割れ目。低密着割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	4	CL'	0	10	20	30	40	50																
						Dg	VIg	dg	3																										
						Dg	Vg	cg																											
				Cg		cg																													

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入		試験	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN / rPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
														(N値~深度)	図																					
61				花崗斑岩	灰褐	Cg Vg cg	3			●60.06~60.38m: 破砕部 60.06m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質一部や硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06~60.16m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端45°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30~50mm。 60.16~60.38m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐色~緑灰色を呈する。 60.38~60.74m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50~80°の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。 60.74~60.90m: 径5~20mmの硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。 60.96~61.39m: 低密着割れ目沿いに主に径10~20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。 61.25~61.28m: 傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。 61.39~61.47m: 変質部。上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。	CL'																									
62					明褐色	Dg Vg cg	3				●61.47~61.52m: 破砕部 61.47~61.52m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端5°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。 61.52m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。 61.52~62.42m: 傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり。幅1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土を挟むことが多い。 62.38m: 傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟持物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 62.42~62.49m: 上端25°、下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。 62.49~62.74m: 変質で著しく軟質化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰赤色の粘土脈を挟む。 62.74m: 傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。その下層側幅3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。 62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰~白色粘土が付着していることが多い。	D'																								
63					花崗斑岩	緑灰	Vg cg	4																												
64						灰褐	Dg Vg cg	3																												
64				花崗斑岩	緑灰	Vg cg	4																													
64					灰褐	Bg Vg cg	2																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														0	10	20	30	40											50				
61				灰褐	Cg	Vg	cg		3																								
					Eg	Vg	dg																										
					Dg	Vg	cg																										
					Eg	Vg	dg																										
				明褐灰	Cg	Vg	cg		2																								
					Eg	Vg	dg																										
				花崗斑岩	Dg	Vg	cg		3																								
					Eg	Vg	dg																										
62					明褐灰	Dg	Vg	cg		3																							
						Eg	Vg	dg																									
			緑灰		Vg	cg		3																									
					Dg	Vg	cg																										
63					明褐灰	Eg	Vg	dg		3	63.03~63.04m: 傾斜40°で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。 63.21m: 傾斜45°で幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。 63.29~63.67m: 上位よりも著しく軟質化し、径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 63.49m: 傾斜55°の割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●63.67~63.90m: 破碎部 63.67~63.83m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端45°、下端60°でともに一部不明瞭で連続。径5~20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。また、63.72mに傾斜45°で幅2~3mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。																						
						Eg	Vg	dg																									
					灰褐	Bg	Vg	cg		2	63.83~63.88m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端60°で不明瞭。下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの一部粘土化。一部礫さ「E」の岩片を多く含む。基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状~レンズ状に含む。軟質。灰白~赤灰色を呈する。幅20~30mm。 63.88~63.90m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。 63.90~64.05m: 礫さ「D」の径5~20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟質化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目で下位と境される。 64.05~64.57m: 一部に礫さ「C」を含むが、礫さ「B」の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部で径10~20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟在物は分布しない。 64.57~65.06m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も分布する。 64.83m: 傾斜60°で幅1mmの硬質な緑灰色粘土脈を挟む。																						
						Bg	Vg	cg																									
64						灰褐	Bg	Vg	cg		2	63.83~63.88m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端60°で不明瞭。下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの一部粘土化。一部礫さ「E」の岩片を多く含む。基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状~レンズ状に含む。軟質。灰白~赤灰色を呈する。幅20~30mm。 63.88~63.90m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。 63.90~64.05m: 礫さ「D」の径5~20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟質化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目で下位と境される。 64.05~64.57m: 一部に礫さ「C」を含むが、礫さ「B」の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部で径10~20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟在物は分布しない。 64.57~65.06m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も分布する。 64.83m: 傾斜60°で幅1mmの硬質な緑灰色粘土脈を挟む。																					
							Bg	Vg	cg																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%)	岩級区分	最大コア長 → cm R Q D L [%]	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コア チップ /ビット	給 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																										
															0	10	20	30	40													50																																									
66			花崗斑岩	灰褐			IVg	bg			65.06~66.65m: 傾斜30~60° とこれらに斜交~直交する40~80° の割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まないが、割れ目沿いに径5mm前後に細片化することがある。 65.09m・50°、65.31m・60° の各割れ目沿いに、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。																																																														
67					明褐灰			Vg																													66.50~66.65m: 傾斜55~60° の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まない。 66.64m: 傾斜65° の割れ目沿いに幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。 66.65~66.85m: 実質部主として実質により著しく軟質化する。上端は傾斜65° の割れ目で直線的でシャープに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。径5~20mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と粘土化した基質からなる。基質中には所々に幅1~2mmの軟質な粘土脈が分布する。 66.85~67.88m: 割れ目は一部が消滅一部は傾斜60~70° が主体で残留する。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1~3mmの軟質な白~暗緑灰色の粘土脈が分布する。																																				
68						明褐灰			VIg	dg																																																									67.88m: 傾斜65° の割れ目は、交差する60~70° の低密着割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 67.88~67.98m: 上端65°、下端55° の割れ目で囲まれ、実質と風化で著しく軟質化する。せん断面は分布しない。 67.98~70.00m: 傾斜50~70° の割れ目、低密着割れ目が主体で、割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化するが、全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には、幅1mm以下の軟質な白色粘土脈が少量分布する。また、68.32m、68.57m、68.84mには傾斜40~70° で幅1~3mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。						
69			灰褐					Vg	cg			69.52m・70°、69.75m・70° の割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																																													
	42.55	70.00		明褐灰				Dg																																																																	

H27-B-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図																		
										5.27~10.05m : 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~歪角礫を含む粗粒砂からなる。				0	10	20	30	40	50													
		6								5.60~7.07m : 砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの堆積構造は分布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。																						
		7								6.50m以深は締まりが良い。																						
										8.01~8.37m : 砂を挟む。																						
		8																														
		9								9.21~9.66m : 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗岩骨材少量含む)。																						
										9.80m付近にモルタルを含む。																						

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	変 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験		原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー リ ン グ / ペ ット	給 回 送 水 量 (rpm) ($\text{kN} \cdot \text{MPa}$)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
													(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値												
11	-0.05	10.05	+	盛土 灰黄緑					10.05~180.00m: 花崗斑岩 径1~3mmの石英、長石を斑晶とする 花崗斑岩。長石は白濁化することが 多い。 10.05~12.96m: CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11. 20mと中央部の11.82~12.00mは風化 が進んで硬さ「D」である。 硬さ「C」の間隔の一部で割れ目に挟 在物を含まない部分があるが、多く は風化により砂や変質粘土を脈状に 挟む。長石の多くは白濁化している。 10.70~10.80m: 硬さ「C」の硬質岩 片が残留する。	0																
12			+	明 褐 灰			Dg	δ	2	11.20~11.82m: 硬さ「C」主体で挟 在物も少ない。一部で密着度の低い 割れ目を含む。 11.40~11.55m: 割れ目が交差し岩片 化するが、劣化は伴わない。	CL'															
							Dg	δ	3	11.82~12.00m: 上下位よりも軟質化 する。11.97~12.00mは粘土化が進む。 12.00~12.96m: 硬さ「C」主体であ るが、割れ目沿いに幅1mm程度で薄く 砂状化することが多い。また、各割 れ目は弱くマンガン鉱染を受け、面 の一部は黒褐色化する。																
13			+	花 崗 斑 岩			Cg	γ	2																	
							Eg	δ	3	12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級 が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目 は残留しているが、全体に硬質な砂 状化が進み、所々、灰白色の粘土を 径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状 に含む。	D'															
14			+				Cg	δ	2	13.64~14.30m: 硬さ「C」の岩片 主体で20~40°の密着度の低い割れ目 が同方向に1~2cm間隔で分布する。																
							Eg	δ	3	14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘 土を挟む割れ目は、交差する80°で 幅1mmの石英脈を止めている。割れ目 周辺の岩盤に原岩組織は認められ、 系統的な割れ目も存在しない。	CL'															
							Dg	δ	2	14.30~14.62m: 上端17°で幅1~5mm の軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下 端50°の割れ目で囲まれ著しく軟質 化しているが、一部に硬さ「D」も残 留する。原岩組織や割れ目はわずか に残留する。所々に幅1~2mmの軟質 灰白色粘土を脈状に含む。 14.62~20.04m: CL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目 沿いに風化で砂状化が拡大する部分 も含む。16.49mは硬さ「D」主体 、16.49m以下は硬さ「C」主体である。																

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔 内 水 平 露 露)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー リ ン グ ノ ビ ット	給 水 量 (L / 分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)								
													N	値	値	値	値																		
16			+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2	15.33~15.43m : 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟質化著しい。上下端とも35° 前後の割れ目である。 15.73~15.80m : 80° の割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m : 50° の割れ目沿いに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。 16.49m : 35° の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。 16.76~16.87m : 径10~20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。 17.13~17.31m : 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。 17.40~19.00m : 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。 17.85~18.00m : 割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。 18.05~18.47m : 変化変質により石英量が多くなり硬化する。 18.43~20.04m : 一部の割れ目沿いや岩芯がマンガン鉱染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。 18.90m : 50° の割れ目に幅1~5mmの淡黄褐色砂を挟む。 19.59m : 40° と80° の割れ目が交差し、80° の割れ目は40° の割れ目に止められる。80° の割れ目は19.65mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向かって割れ目は閉じていき、砂の挟み込みも分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩壁に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0	50	100																						
					Eg	Vg	dg	ε	3		10	(10)	100																						
					Dg	Vg	cg	δ	2		7	(10)	100																						
17			+	花崗斑岩																															
					Dg	Vg	cg	δ	2	8	(10)	100	CL'																						
18			+	にふい橙																															
					Cg	cg	δ	3	5	(10)	100																								
19			+	明褐灰																															
					Dg	Vg	cg	δ	2	9	(10)	100																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N 値 ~ 深度) 図																			
21				花崗斑岩	明褐灰	Bg	IV _g	bg	γ	20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁化するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	0 50 100	CL																					
										20.93~26.70m: CL 前後の割れ目が主体、一部で70~90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分を含む。また、所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.69m以下は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以下は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。下端49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。 21.55~21.65m: 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。 21.70~22.40m: 高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03~22.63m: 70~90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.50~22.64m: 上端60°で幅2~3mmの褐色粘土脈、下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60°斜交する80~90°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																							
22						Dg	V _g	cg	δ																								
23					明褐灰	Cg	IV _g	bg	γ																								
24						Dg	V _g	cg	δ																								
						Cg	IV _g	γ																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N)	値																			
		26	花崗斑岩	明褐灰		IVg				25.00~25.81m及び25.09~25.28m: 85~90°の割れ目に幅1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し、硬さ「D」の部分も認められる。				0	50																			
						Cg	cg	γ	2		25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目沿いに砂状化する部分が多い。		CL'																					
							Vg				26.22m: 50°の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。																							
					灰白						●26.70~26.90m: 破砕部 26.70m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.71m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端43°、下端43°でともに直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。軟質。灰白色を呈する。幅1mm。 26.71~26.90m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端43°で直線的に、下端54°でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。下端は幅1~2mmの粘土脈を伴う。灰白色を呈する。幅150~170mm。 26.90~27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。 27.98m: 37°の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。 ●28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 ●29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で礫状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリーブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 29.12~30.56m: CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。																							
						Eg	Vg	dg					D'																					
									δ																									
					明褐灰		Cg	Vg	cg				CL'																					
							Dg																											
									δ	3																								
						Dg	Vg	cg	δ	3																								

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大 コ ア 長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月 日	標準貫入 () 試験		原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 水 圧 (k N · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
													(N 値 ~ 深 度) 図	(N 値)															
31			+	明褐灰	Cg IV _E eg γ				30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。30.56~32.21m: CH 堅硬、割れ目の挟在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。		CL'																		
32			+	花崗斑岩	Bg III _E β				31.20m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。		CH'																		
33			+	灰褐	Cg IV _E γ				31.62~31.66m: 上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。		CM'																		
34			+	花崗斑岩	Dg V _E cg δ				32.11m: 40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。32.21~33.09m: CM 一部を除き、挟在物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口している。32.30~32.53m: 割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。32.53m: 45°で幅2mmの軟質褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。		CL'																		
			+	花崗斑岩	Cg IV _E bg γ				33.09~34.20m: CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。		CM'																		
			+	花崗斑岩	Cg IV _E bg γ				34.20m: 40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈を挟む。34.20~35.94m: CM 殆んど割れ目に挟在物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。		CM'																		

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
			花崗斑岩	灰褐	Cg	IVg	γ		35.31m : 60° の割れ目沿いに幅3~5m mが砂状化する。 35.47m : 5° の割れ目で90° の割れ目 が止められる。5° の割れ目に細粒部 は認められない。割れ目周辺の岩盤 には原岩組織が認められ、系統的な 割れ目も存在しない。	8 (8)	CM'																							
36				にぶい褐	Bg	IIIg	β	2	35.94~37.30m : OH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。 36.07~36.32m : 割れ目沿いや岩芯の 一部でマンガン鉱染を受けるが、劣 化は伴わない。密着度の低い割れ目 が区間内に数本分布する。	19 (19)	OH'																							
37					Cg	IVg	γ		37.03m : 57° の割れ目沿いの一部で 幅3mm前後が砂~細片化する。57° の 割れ目を横断する潜在割れ目が37.05 m, 37.08mに見られる。57° の割れ目 の砂~細片化部は直線性に乏しく、 割れ目周辺の原岩組織は認められ、 系統的な割れ目も存在しない。 37.30~37.55m : CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。 37.55~37.69m : CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化 が進む。マンガンは砂状を呈する。 37.69~37.81m : D 50~60° の割れ目沿いに風化で砂状 化が進む。幅1mm以下の白色粘土脈も 伴う。 37.81~38.50m : CL	16 (16)	CL'																							
38				灰褐	Cg		γ	2	38.21m以深は50° 前後の割れ目沿い に風化、砂状化進む。また、少量の 幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土脈も 伴う。	10 (10)	CL'																							
					Bg	IVg	bg		38.50~39.14m : CM 一部でゆる割れ目を含むが、密着度 は高く、ハンマーの強打でも分離・ 細片化しない。	10 (10)	CM'																							
39					Cg		γ	2	39.14~40.79m : CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハ ンマーの打撃で大半は分離・細片化 する。割れ目には砂や粘土を幅1~3m mで挟むことが多い。	10 (10)	CL'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 回 送 排 (kN / rpm) (MPa) (L / 分)																																																														
													(N 値 ~ 深度) 図																																																																									
41			+	花崗斑岩	明褐灰	灰褐	Cg IVg	γ	2	40.14~40.26m : 50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																																								
										40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目沿いの砂状化も拡大する。																																																																												
										40.72m : 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。 40.79~41.83m : CM 一部の割れ目を除き、割れ目に挟在物は分布しない。																																																																												
										41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い、一部では開口化する。 41.30m : 60° の割れ目沿いに径2~4mの石英が多く晶出している。																																																																												
										41.83~41.95m : D 上端60°、下端55° の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。 41.95~42.78m : CL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40~50° の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m : 上下端とも40° の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。																																																																												
										42.78~42.85m : D 風化で著しく軟質化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。 ●42.85~42.91m : 破砕部 42.85~42.87m : 粘土混じり塊状部 (H)																																																																												
										上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。径1~2mmの石英粒。径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明黄褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m : 粘土混じり岩片状部 (H)																																																																												
										上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mmの白色軟質粘土脈が分布している。明褐色を呈する。幅20~30mm。																																																																												
										42.91~43.00m : D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。 43.00~43.17m : CL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。 43.17~45.60m : CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で仲着割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。																																																																												
										43																						+	明褐灰	Eg VIg dg	δ	4	42.85~42.91m : 破砕部 42.85~42.87m : 粘土混じり塊状部 (H)	0 50 100	CM'		0 10 20 30 40 50																																													
										44																																																	+	明褐灰	Cg IVg	γ	2	42.91~43.00m : D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。 43.00~43.17m : CL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。 43.17~45.60m : CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で仲着割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	0 50 100	CM'		0 10 20 30 40 50																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給戻圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図																								
51			花崗斑岩	明掲灰	Cg	Dg	Vg	δ	3	50.00~50.42m: 70° 前後の風化した微細な割れ目が数条波打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分離する。	0																											
																	50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、30~50°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅1~3mmで薄く砂状化することが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	4																				
																	51.16m, 51.45mの35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。 51.35~51.64m: 割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	4																				
52																	52.00~52.32m: 径10~20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。	6																				
																	52.32~52.75m: 白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。	6																				
																	52.75~53.10m: 岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。	6																				
53																	53.10~55.82m: 密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。橙色を帯びる。 53.40~53.60m: 硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	6																				
																	53.79~53.81m: 上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状~細片状を呈する。 53.85~54.31m: 挟在物を伴う割れ目は少ない。	6																				
54																	54.35~54.59m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	5																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進進捗 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																	N	値	0	10	20												30
71				明褐灰		Cg	γ	2		70.10~71.72m: D 風化と変質で著しく軟質化するが、原岩組織と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深は岩片量が多くなる。 70.17~70.20m: 25°で波打ってマンガンの脈状に分布し、黒色を呈する。下端側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20~71.30m: 粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。					CL'			0	10	20	30	40	50										
							Eg				71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的に径1~2mmの石英がマンガンの脈状により黒褐色化する。				D'			0	10	20	30	40	50										
72				花崗斑岩		Vg	cg			71.72~72.65m: CL 径10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。					CL'			0	10	20	30	40	50										
							Dg		δ	3	72.12~72.17m: 30°の割れ目沿いに褐色化し、砂状化も拡大する。				CL'			0	10	20	30	40	50										
							Eg	VIg	dg		72.65~73.38m: D 72.93~73.11m: 砕実質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂粒状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。 73.18~73.19m: 20°の割れ目沿いに幅10~15mmでマンガンの脈状に分布する。 73.38~76.23m: CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが、全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が幅10mm前後で密に分布する。 73.38~73.58m: 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。				D'			0	10	20	30	40	50										
74				灰褐		Vg	cg			74.04m: 25°の割れ目沿いに幅約20mで軟質化が進む。 74.29~74.48m: 20~30°の割れ目沿いに褐色化とマンガンの脈状を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72~74.84m: 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。 74.90m: 33°の割れ目沿いに幅10mm程度で砂状化する。					CL'			0	10	20	30	40	50										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
													0	10	20	30	40												50								
			+	花崗斑岩	明褐灰				80.24~80.31m: 幅1mm, 長さ10~20mの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	5 (0)	D'																										
81															80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	4 (0)																					
82												明黄褐	Vg cg		81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。 81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。	3 (0)																					
83												明褐灰	Eg	δ 3		83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。 83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	3 (0)																				
84					明黄褐																																
					明黄褐				84.06~84.55m: 10~20°の割れ目沿いに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。 84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。	3 (0)																											
					明黄褐				84.89~85.61m: CL一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目沿いに砂状化する。		CL'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm → Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															(N 値 ~ 深度) 図																		
86				花崗斑岩	にふい褐	Dg					85.28~85.32m: 綠泥石化し、淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。 85.36~85.60m: 高角度割れ目沿いの砂状化が進む。 85.61~91.35m: D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。 85.70m: 15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	CL'																					
87	54.59	87.18		褐灰	Eg						86.50~86.78m: 40~50°の割れ目沿いに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。	D'																					
	54.83	87.52	コア欠如								87.18~91.35m: 強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂様状を呈する。 87.18~87.52mの基質部はスライムである。																						
88				明褐灰	ViE	dg					88.18~89.05m: 残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。																						
89				花崗斑岩	Eg							D'																					
											89.05~90.14m: 岩片のみ採取され、基質の砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。																						

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													(N)	(値)																		
		-56.97	90.55	花崗斑岩		Eg	VIg	dg	δ	3	90.14~90.55m: 硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	D'																				
		-57.18	90.85	明褐灰						90.55~90.85m: スライム。																						
91				灰白						90.85~91.00m: 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。																						
				浅黄橙						●91.35~91.54m: 破砕部の連続。91.35~91.43m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白~にぶい黄橙色を呈する。幅80mm。																						
						Eg	VIg	dg		91.43~91.44m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜25°で、上端は湾曲して、下端は波打って連続。径1mmの石英粒をごくわずかに(5%以下)に含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~10mm。																						
92										91.44~91.51m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°、下端18°とともに波打って連続。径5mm前後の硬さ「D」岩片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。淡黄橙色を呈する。幅30~60mm。																						
										91.51~91.54m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。上端面とほぼ平行な20°~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化する。岩片間には軟質粘土が分布する。にぶい橙色を呈する。幅20~25mm。																						
93						Dg	VIg	cg	3	91.54~92.85m: D 径10mm前後の硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟質化が著しい。92.00m以浅は石英以外は砂状化する。92.00m以下の割れ目間が強く変質し、淡黄色の砂礫状を呈する。																						
										91.59~91.67m: 上端8°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガノ鉱染により、全体が黒化する。92.71~92.85m: 上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。																						
						Eg	VIg	dg		92.85~93.66m: CL 70~80°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅1~3mm程度の砂状部~粘土化部を挟む。																						
94						Dg				93.66~93.96m: D 上下端80°の割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。																						
										93.86~99.50m: CL 50~70°とこれに直交する40~50°の割れ目が多い。94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。																						
										94.25~94.31m: 10~20°の割れ目に囲まれ砂礫状を呈する。																						
										94.43m以深は岩片自体は硬さ「B」も多く含むが、割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため細片化する。割れ目の一部はマンガノ鉱染を受け																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
													0	10	20	30	40												50													
			花崗斑岩		灰褐	Cg	γ		95.50~95.71m: 割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。																																	
96					明褐灰	Vg			95.94~98.05m: 硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。95.96m: 60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mmにマンガン鉱染部を伴う。																																	
97						Dg	3		96.52~97.60m: 30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が認められる。																																	
					にぶい橙	Dg		δ	97.07m: 15°で幅2~3mmの石英脈を挟む。劣化は伴わず密着する。																																	
98						Cg	IVg		97.58~97.69m: マンガン鉱染が進み黒褐色化する。97.69~97.78m: 硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの斑点状で分布する。																																	
						Cg	IVg		98.02m: 30°で幅2~5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。98.05~98.92m: 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目沿いに軟質化する部分もある。98.20m: 50°の割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。																																	
99						Dg	Vg	γ	2	98.92~99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟質化するが風化、変質は弱い。																																
						Eg	VIg	dg	δ ε	●99.50~99.68m: 破砕部 99.50~99.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交~60°斜交する割れ目で径5~10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m: 雑混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟在している。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅85mm。 99.68~100.50m: CL 硬さ「D」主体。																																
							Dg	Vg	cg	γ	2																															
						褐灰	Eg	VIg	dg	δ ε	3																															
					にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
															0	10	20	30	40												50			
101			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg Vg cg	Vg	cg	γ	2	100.00~101.00m: 密着度が低い割れ目~ゆ着割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。	5 100	CL'																					
																																	Cg Wg bg	Cg
102			+	花崗斑岩		Dg Vg δ	Vg	δ		3	101.45~101.78m: 幅1~2mmの白色~黄色粘土が脈状に多く分布する。	8 100	CL'																					
																																	Cg	Cg
103			+	花崗斑岩		Wg	Wg	γ	γ	2	102.56~104.28m: CM 硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状のゆ着割れ目が多く分布するが、ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2~3mmで砂状~細片状化部を挟むものもある。	8 100	CM'																					
104			+	花崗斑岩		Cg Vg cg δ	Vg	δ		γ	103.94~104.00m: 風化で淡褐色化し軟質化する。	8 100	CM'																					
																																	Bg Wg bg β	Bg
104			+	花崗斑岩		Bg Wg bg β	Wg	β		β	104.28~105.88m: CM 堅硬で塊状。一部で白い筋状のゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m、104.61mに10°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟在し、マンガンも伴う。	8 100	CM'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
															(N 値 ~ 深度) 図																																															
			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	β				105.14m: 67° の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。	0 50 100																																																		
																																105.33~105.52m: 割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。																														
106																															に ぶ い 橙	Cg					105.88~108.71m: CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。叩着割れ目も多く、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。																									
																																						106.00m, 106.16m: 73° の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。																								
107				花崗斑岩	褐灰	IVg	bg	γ	2		107.30m以深では径2~3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。																																																			
																	107.60~108.60m: 径5~10mmの大型のかり長石の斑晶を多く含む。																																													
108				花崗斑岩	明褐灰	Bg					108.68~108.71m: 割れ目沿いに細片化する。																																																			
																	108.71~112.27m: CM 堅硬・塊状。白い筋状の叩着割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目沿いはごく薄く風化で褐色化するが劣化はない。																																													
109				花崗斑岩	褐灰		β																																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給 圧 (kN・rpm / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
														(N 値 ~ 深度) 図																										
			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	bg	β	2	110.11~110.95m: 50~60° とこれに直交~斜交する10~30° の割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50~60° の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0	CM'		0	10	20	30	40	50																					
111																	111.14m: 76° の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微少なセリサイトも点在する。 111.31~111.34m: 割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。	12																						
112																	112.00~112.27m: 70~80° とこれに直交する20~30° のゆ着割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27~113.27m: CM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆ着割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。	1																						
113																	113.27~114.41m: CH 堅硬・塊状。割れ目は少ないが、70~80° の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同系統で密着度が高い。	20																						
114										114.24m: 80° のゆ着割れ目沿いに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。 114.41~115.12m: CM 70~80° の割れ目が多く、114.89~115.12m間は上端幅5mm、下端幅30mmで砂状化~片状化する。	22																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入)試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給 転 数 (rpm)	回 転 数 (MPa)	送 水 量 (L/分)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
															(N値~深度) 図																											
			花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	Cg	γ	3		●115.00~115.12m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端80°, 下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィロム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に赤黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。 115.12~116.80m: CM 堅硬で、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.90~116.10m: 径5mm前後の橙色のかり長石が多く分布する。 116.33m: 70~80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。両割れ目の一部に幅1mm、交差部に幅5mmの緑泥石砂状~シルト~粘土を挟む。70~80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には底層織線が認められる。系統的な割れ目は存在しない。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟在物は分布しない。 117.32~117.39m: CL 75°の割れ目沿いに幅20~25mmが風化で軟質化する。 117.39~118.47m: CH 堅硬、一部で割れ目が多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色新状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。 117.65~118.40m: 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色を呈する。 118.20m・75°, 118.46m・75°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。	12																														
-116							Bg	Vg	Bg	β				13																												
					花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	Cg	γ	2			14																												
-117								Bg	Vg	Bg	γ				15																											
									Bg	Vg	Bg	γ			16																											
-118					花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	Cg	γ	3			17																												
							Bg	Vg	Bg	γ			18																													
							Bg	Vg	Bg	γ			19																													
			アブライト 花崗斑岩	暗緑灰 明褐灰	Dg	Vg	Cg	δ	3			20																														
							Eg	Vg	Cg	4			21																													
							Dg	Vg	Cg	3			22																													
							Dg	Vg	Cg	δ	3			23																												
												24																														
												25																														
												26																														
												27																														
												28																														
												29																														
												30																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													(N 値 ~ 深度) 図																		
						Dg Vg cg δ 3			120.09~120.10m: 60° で幅10~15mmの緑泥石化で軟質化する。 120.10~125.90m: CH 堅硬。塊状。割れ目に挟在物は分布せず。面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																		
121																															
122									121.60m: ゆる割れ目が開口割れ目化する。																						
123				花崗斑岩		Bg IIIg bg β 2			122.36m: 65° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。 122.61m: 60° の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。																						
124									123.35~125.06m: 80~90° の割れ目が連続する。 123.63~123.67m: 割れ目沿いに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													0	10	20	30	40												50
141			+	明褐灰	緑灰	IIIg	IIIg		140.13m: 65° の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など変化はない。	0	OH'																		
									140.39~140.61m: CM 70° の割れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。																				
142			+	灰褐	Bg	Bg	β 2		140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。一部でゆる割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーでの強打でも分離・細片化しない。	0	OH'																		
									141.40~142.00m: 径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。																				
143			+	灰褐	緑灰	IVg	IVg		141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状のゆる割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。	0	CM'																		
									142.32~142.43m: 50° 程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まない。																				
144			+	灰褐	緑灰	IVg	IVg		142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。	0	CM'																		
									143.48~144.50m: 径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。																				
			+	灰褐	緑灰	IVg	IVg		143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。	0	CM'																		
									144.08~145.44m: 40~60° のゆる割れ目が密集する。多くが開口化しやすい。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														(N)	(値)																					
			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	β	2	145.37m : 50° 割れ目沿いに幅15mmが径2~10mmに細片化するが、岩片は硬質である。砂や粘土は挟まない。 145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達する。	0 50 100 1 [B2] 100 12 [B3] 100 25 [B7] 100 22 [B2] 100 11 [B2] 100	CM'																								
146		145.88m : 70° のゆる割れ目沿いに幅約10mmで緑泥石により緑灰色を呈する。																																		
147		146.56~147.08m : 60~70° のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。																																		
148		147.08~150.59m : CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆる割れ目が開口したものである。残留するゆる割れ目は周囲と同化し、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に挟在物は殆んど分布せず、未風化で新鮮である。																																		
149		148.78m : 65° の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。 149.20~149.36m : 割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)												
151			花崗斑岩	にぶい褐	IIIg	IIIg	IIIg		150.04~150.59m: 50~80°で幅0.5mm以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同化し、開口割れ目化していない。	5	CH'															
		150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を確状に伴う。							39																	
		150.59~151.57m: CM 20~40°と70~80°の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。		25	100																					
		151.21m: 85°の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。				43	90																			
152			にぶい褐	IIIg	Bg			bg	β	151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化する。	36	CH'														
		151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。				90																				
		151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。割れ目やゆる割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆる割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。	21	100																						
		152.23~153.85m: CH 堅硬・塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟持物は分布しない。割れ目やゆる割れ目の一部は割れ目沿いに緑泥石化するが硬質である。			36	95																				
153			にぶい褐	IIg						152.50~152.67m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多量に含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し、硬化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食み状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆる着する。	21	CH'														
		153.20m付近に径10mmの大型の褐色のカリ長石の斑晶が点在する。			95																					
		153.25~153.60m: 60~80°の高角度な白色筋状のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、開口化しない。	21	100																						
154					にぶい褐	IIIg				153.85~154.60m: CH 堅硬・塊状。	42	CH'														
		154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂など挟まない。	100																							
		154.60~156.18m: CH 堅硬・塊状で割れ目は少ない。155.25m以深で60~90°の高角度の白色筋状のゆる割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。																								

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大 コア 長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図				原 位 置 試験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ペ ッ ト	給 圧 (k N · r p m)	回 転 数 (r p m)	送 水 圧 (MP a)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
													0	10	20	30																
				花崗斑岩	暗緑灰	IIg			160.40~161.45m: CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。	22	GH'																					
161					にぶい橙	IVg			161.10~161.69m: 径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	45	CM'																					
					緑灰				161.45~166.65m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度のゆる割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。ゆる割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含み、にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目やゆる割れ目沿いでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に晶出する。	13																						
162					灰褐	IIIg			161.70~161.90m: 60°の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	26																						
					にぶい橙	Bg	Bg	β	2	162.12~162.18m: 径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。	35																					
163					灰褐			162.46~162.57m: 80~90°のゆる割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	35																							
					にぶい橙				163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。	37	GH'																					
164					灰白				164.00~164.30m: 径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	35																						
					にぶい橙				164.50m: 径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。	35																						
									164.94m: 70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下境界に劣化はない。																							
									164.95~165.89m: 橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙色などの橙色系を呈する。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													(N 値 ~ 深度) 図	() 値												
166			花崗斑岩	にがい橙					165.32m : 70° の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	46	CH'															
				灰褐	IIg				165.80~166.10m : 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	95																
				褐灰	IIIg				166.44~166.47m : 径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。 166.65~167.21m : CH 一部で高角度割れ目がやや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	60																
167				暗緑灰	Bg	bg	β	2	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	21																
				灰褐	IVg				167.21~168.22m : CM 白色筋状のゆる割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。	34		CM'														
168			灰褐					168.22~169.66m : CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆる割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆる割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。	25																	
169			暗緑灰	IIg				169.19~169.41m : 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。	18		CH'															
			灰褐					169.66~172.69m : CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。 169.67~170.22m : 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。	43																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記号	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図	孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																								コア採取率 (%)
171			+	褐灰							77 [81]													
																								170.20~170.65m: 60~70° のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
172			+	灰褐		II g					48 [87]													
																								171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のかり長石が点在する。 171.29m: 35° と87° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。 171.85m: 34° と74° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。
173			+	花崗斑岩		Bg	bg	β	2		37 [62]	CH												
174			+	にぶい褐		III g					28 [58]													
174			+	褐灰		II g					62 [100]													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																			
														N 値	10m	20m	30m	40m												50m																		
-176			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	IIg	β		176.15~176.22m: 70° 程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ面に挟在物は分布しない。		CH'																																				
					灰白	Cg	IVg	γ		176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 176.59~176.62m: 30° の割れ目沿いに風化 (γ) し、軟質化 (D) する。砂状~粘土状部は挟まない。 176.78~176.15m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれるゆる割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の斑点状~幅0.5mmの細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化しない。																																						
								2		177.65m: 35° で幅2~3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。 177.83~178.27m: 径5~10mmの大型な橙色のかり長石が晶出し、点在する。																																						
					褐灰	Bg	IIg	β		178.31~178.39m: 上端75°、下端70° の割れ目に囲まれ幅25mmで径5~10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。 178.45m以深はゆる割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。																																						
										179.15~180.00m: CM 179.37~179.68m間の一部は15~57° の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で、面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。ゆる割れ目の多くは開口割れ目化する。																																						
		-120.22, 180.00																																														

余白

H27-B-4

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo.									1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H27-B-4			調査位置	X:277.520 , Y:897.180			北緯	35° 45' 12.76"		
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2015年5月23日～2015年7月9日		東経	136° 1' 4.38"		
調査業者名	[Redacted]			主任技師	[Redacted]		現場コセア 代理人	ボーリング責任者			
孔口標高	6.95 m	角上 150°	方 90°	北 210°	東 90°	西 150°	南 143.0°	地盤勾配 鉛直	使用機種	試験機	ハンマー 落下用具
総掘削長	140.00 m	度下 0°						水平	エンジン		ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ 日の状態	風化 性質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↓ (%)	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		試験 原位置試験 (孔内全手動)											
													掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチュウ/ピット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
						黒			0.00~13.75m: 盛土 0.00~0.22m: 粒径5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。 0.22~3.10m: 粒径じり砂、径2~20mm程度の花崗岩片、アブライト、頁岩などの礫 (角礫~歪円礫) を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22~1.00m間は比較的緻か〜富む (粒率5~10%)。全体に緻く。コアは指圧で容易に凹む。																	
						盛土			3.10~6.30m: 砂質礫 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類の塊。基質の砂質頁岩やコンクリート片が混じる。径10~100mmの角礫~歪角礫が多い。基質は細粒及び粗砂からなる。 3.30~3.58m: コンクリート片																	
						明黄褐			3.70~4.00m: 基質は流失済み。全体にルーズ。																	

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ン / ベ ッ ト	給 圧 (kN · rpm / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)												
													0	10	20	30	40												50											
		6							5.73 ~ 6.00m : 基質はやや流失済み。																															
									6.30 ~ 7.00m : 礫混じり砂粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含む。極めて少量の径10mm以下の貫岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。																															
									7.00 ~ 7.45m : アブライトの巨礫																															
									7.45 ~ 13.75m : 礫混じり砂~砂質礫径2~70mmの花崗岩類、黒灰色の貫岩の角~亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている~締っている。																															

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 月 日	(標準貫入) 試験					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 回 送 水 圧 (kN · rpm / MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)							
													(N 値 ~ 深 度) 図																				
16			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	2	15.06m, 15.09mにはそれぞれ43°, 55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂~シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。 15.49~15.62m: 礫状コアを呈する。 15.62~15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	CL'		0	10	20	30	40	50															
																																	明黄橙
																																	オリーフ黄
																																	黄橙
17			+	花崗斑岩	黄橙	Dg	Vg	cg	3	●15.91~16.36m: 破砕部 15.91~16.33m: 粘土混じり礫状~粘土質礫状部 (Hj) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。上端には幅2~6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリーフ黄色を呈する。 16.33~16.36m: 粘土状~礫混じり粘土状部 (Hc-1) 上端不明瞭。下端76°で波打って連続。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。 16.36~16.52m: 上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。 16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。 17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	D'		0	10	20	30	40	50															
																																	淡橙
18			+	花崗斑岩	黄橙	Dg	Vg	cg	2	17.86~18.52m: コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	CL'		0	10	20	30	40	50															
																															淡橙		
19			+	花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	cg	2	18.52~24.55m: 30~60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大型の斜長石の斑晶が目立つ。 19.57~19.76m: 礫状コアが主体となる。	CL'		0	10	20	30	40	50															
																																淡橙	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																			
															(N 値 ~ 深度) 図																																																		
51			+								50.09m : 15~70° の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。	0																																																					
																																Cg	IVg																																
																																Eg	VIg																																
																																	IVg																																
																																Cg	Vg																																
																																	IVg																																
																																52										51.20~51.43m : 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でにぶい橙色粘土を挟む所が多い。																							
																																										51.66~51.97m : 30~50° の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。																							
																																										52.11~53.35m : 傾斜20° 以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。																							
																																										52.38~52.44m : 微細な割れ目が密集し、局部的に隙状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。																							
										52.90m : 45° で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。																																																							
										53.54~53.59m : 割れ目沿いの劣化が明瞭で、一部は細礫~砂状となる。																																																							
										53.84m : 高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。																																																							
										54.66~54.73m : 50~60° のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。																																																							
										54.96~55.55m : 傾斜20° 以下の割れ目が非常に卓越する。																																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平懸垂)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
														(N 値 ~ 深度) 図																																															
56			花崗斑岩 にふい橙	γ 2			V _g cg			55.56m : 50° の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																																															
							IV _g																																																						
							V _g																																																						
							Cg																																																						
							IV _g																																																						
57							Bg																														56.45~56.61m : 高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。																								
							V _g																														56.74m : 71° で幅3mmの褐色粘土を挟む。																								
							Bg																														56.88~56.98m : 約50° のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部礫状となる。																								
							IV _g																														57.24~58.50m : 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。																								
							Dg																														57.54~57.74m : 傾斜50~66° の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。																								
							V _g																																																						
58							Cg																																																						
			Bg							58.06~58.71m : 岩質は硬い。																																																			
			IV _g																																																										
			Cg																																																										
			V _g																																																										
59			Bg																																																										
			IV _g							59.02~59.34m : 潜在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。																																																			
			Cg																																																										
			V _g																																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																											
																0	10	20	30	40												50																																										
61			+										0																																																													
																																Cg	2	60.07~60.45m: 微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。	4	100																																						
																																Dg	3																																									
																																Cg	2	60.45~60.82m: 30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。	4	100																																						
																																	cg		60.82~61.72m: 微細な割れ目が卓越し、にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	3	100																																					
																																Dg	3																																									
																																	Vg		61.72~62.36m: コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。	2	100																																					
																																	Cg		62.36~63.25m: コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。62.40~62.52m: 長石の白濁化が目立つ。	3	100																																					
																																	Dg		62.75m: 傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。63.00~63.26m: 劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。63.26~63.62m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	3	100																																					
																																	Cg		63.62~63.90m: 全体に軟質で、亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	2	100																																					
	Dg		63.90~64.30m: 強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色を帯びる。原岩組織は認められる。	3	100																																																																					
62			+										0																																																													
																																					cg		64.30~64.65m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化物汚染は見られない。	2	100																																	
																																					Vg		●64.65~64.91m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (H) 上端65°で直線的に連続、下端65°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1~3mmの灰~灰白色シルト (Hc-2) を挟む。全体はにぶい黄褐色を呈する。	3	100																																	
																																					Bg			2	100																																	
63			+										0																																																													
																																					cg																																					
																																					Vg																																					
																																					Bg																																					
64			+										0																																																													
																																						cg																																				
																																						Vg																																				
																																						Bg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																																															
66			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	Vg	cg			2		0																																																																																																																																																																																																																																																	
																															67			+	灰黄褐	Eg	VIg	dg			4	●65.59~65.72m: 破砕部 粘土混じり砂~礫状部 (Hj)	3																																																																																																																																																																																																																			
																																																														68			+	灰白	Dg				3	上端65°で直線的に連続、下端30°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で、一部砂状化する。灰色を呈する。幅10mm。65.65mには傾斜65°で幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。 65.72~65.85m: 網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。 65.85~66.30m: 傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。 66.30~67.28m: 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	3																																																																																																																																																																																					
																																																																																															69			+	にぶい橙	Eg	IVg	dg			4	67.28~67.75m: 変質部で、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈する。割れ目は不明瞭となる。粘土化が進む。健岩部との境界は明確であるが湾曲している。上端側は低角度の割れ目で壊される。原岩組織は不明瞭で含まれる岩片に定向配列などは見られない。	3																																																																																																																																																			
																																																																																																																																			+	にぶい橙	Dg				3	67.85~68.70m: 傾斜30~50°程度の割れ目が主体で、特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達する。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。 68.07~68.97m: コアは軟質で表面がザラつく。	2																																																																																																																			
																																																																																																																																																																			+	にぶい橙	Vg	cg			2	68.70m: 30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著である。 68.70~68.97m: 傾斜70~90°の割れ目が多い。 68.97~69.08m: 細粒~砂状を呈するが、粘土は挟まない。	3																																																																																			
																																																																																																																																																																																																			+	にぶい橙	Eg	IVg	dg			2	69.28~69.33m: 割れ目沿いに劣化し、細粒状となる。	3																																																		
																																																																																																																																																																																																																																		+	にぶい橙	Dg				3	69.59m、69.70m: 傾斜25~30°の割れ目沿いにわずかに緑色化する。 69.63~69.77m: 50~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交差し、高角度の割れ目沿いに劣化が顕著である。 69.85~70.00m: 割れ目が密集し、岩片状を呈する。	3																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															(N値~深度) 図																						
							Dg Vg cg					0 50 100				0 10 20 30 40 50																					
							Dg Vg cg																														
71							Dg Vg cg																														
							Dg Vg cg																														
72							Dg Vg cg																														
							Dg Vg cg																														
73							Dg Vg cg																														
							Dg Vg cg																														
74							Dg Vg cg																														
							Dg Vg cg																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
76	46.97	76.25	+	花崗斑岩	Bg	bg					75.05~75.29m: 20~40° の低角度の割れ目が見られ、やや脆弱となる。																						
					Cg	Vg					75.97~76.25m: 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。																						
					Dg						76.17m: 傾斜51° で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進む。 76.25~77.80m: アブライト 径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるぎ不明瞭。 76.61m: 傾斜54° で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。																						
77				アブライト	IVg	cg					76.80m: 傾斜45° で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。 76.90m: 傾斜50° で幅1~3mmのマンガンを挟む。		CL'																				
					Vg						77.19m: 傾斜50° で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。																						
					Dg				γ 2		77.48~77.67m: 20° 程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ、コアは軟質でザラつく。77.55~77.60m間はマンガンを濃集する。																						
78	48.06	77.80	+	淡緑	IVg	bg					77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の挟在物を伴う。																						
					Vg						78.21~78.51m: 多方向の割れ目が見られ、やや脆弱である。 78.29m: 傾斜24° で幅10mm程度が砂~細片状を呈する。																						
					IVg	cg					78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガンの汚染が目立つ。																						
79				花崗斑岩	Bg	IVg																											
					Cg	Vg																											
					Bg	IVg	cg																										
					Vg						79.45~79.57m: 短い筋状のマンガンの汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。		CM'																				
					IVg	bg																											
					Bg																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															0	10	20	30	40												50				
81			+		淡橙	B _g	IV _g	bg	2		80.13~80.29m: 35~55° の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立ち、脱色も見られる。 80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭である。 80.51~81.02m: 割れ目に挟在物は見られず。岩質は硬い。	0 50 100	CM'																						
						D _g	V _g	cg							3																				
						C _g																													
82			+	花崗斑岩	淡橙	II _g	bg	2	γ	81.20~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90° の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。 82.70m、82.83m: 傾斜50° 前後で幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	0 50 100	CH'																							
						B _g	cg							13																					
						IV _g	bg								26																				
						C _g																													
83			+	花崗斑岩	淡橙	B _g	cg	2	γ	83.08~83.32m: 40° 前後の割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。 83.31m: 傾斜38° 前後で幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	0 50 100	CM'																							
						C _g	V _g							12																					
						B _g	IV _g								bg	134																			
84			+	花崗斑岩	淡橙	D _g	V _g	cg	3	84.09~84.77m: 多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質である。特に84.15~84.18m、84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱である。黄色味を帯びて薄片状を呈する。	0 50 100	CL'																							
						B _g	IV _g	bg						8																					
						C _g	IV _g	bg							10																				
						2																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																												
														N	0	10	20	30												40	50																																																										
		86	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	にぶい橙				IV _E bg		85.73~85.97m: 70~90° の高角度の2象の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達し、岩片状となる。	CM'																																																																													
		87																													花崗斑岩	にぶい橙				Bg	γ 2	86.73~86.83m: 上端37°, 下端40°の割れ目に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。 86.83~88.03m: 傾斜60°前後の割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られず、岩質も硬い。 87.11m: 傾斜60°で幅5mm程度が緑色化する。	CH'																																																		
		88																																																											花崗斑岩	にぶい橙			Bg		88.59m: 傾斜43°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化する。	CH'																					
		89																																																																																							花崗斑岩
																																																													花崗斑岩	にぶい橙			Bg			CH'																					
																															花崗斑岩	にぶい橙			Bg			CH'																																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピエツト	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
												(N) 値	図																
91				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	IVg	bg	2	90.64m: 傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75~91.96m: 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の顕在化した割れ目で止まっているものが多い。50°以下の割れ目には細粒部は伴わない。もしくは途中でせんで減し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CM'	0	100																
							Cg	cg																					
92				花崗斑岩	浅黄橙	Dg	Vg	cg	2	91.45m: 48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挟在する細粒部はせん減する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CL'	0	100																
							Cg	cg																					
93				花崗斑岩	浅黄橙	Eg	VIg	dg	3	92.55~92.71m: 多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。 92.94~92.96m: 傾斜27~40°の2条の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟質である。 ●93.13~93.22m: 破砕部 93.13~93.14m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30°。下端50°でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土脈を挟む。にぶい黄橙色を呈する。幅67mm。	CM'	0	100																
							Cg	cg																					
94				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	IVg	bg	2	93.28~94.40m: 2条の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	CM'	0	100																
							Cg	cg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化状態	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																											
																		0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																										
96			花崗斑岩		浅黄橙		Bg cg Vg		2		95.08~95.37m: 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	3 (0)	100		CL'																																																																																																																																																																													
97							Dg Ivg bg				γ																																96.20~96.32m: 30°で幅30~40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる礫や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	9 (0)	100																																																																																																																																															
98							Eg Vg Dg																																				γ																																		96.96m: 傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化する。 97.10~97.59m, 97.81~98.03m: 割れ目が著しく発達し、砂礫状を呈する。コアが乱れている。	3 (0)	100																																																																																																													
99							Cg Ivg Dg Vg Cg																																																																						γ																																				98.03~98.27m: 短柱状~岩片状コアからなる。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著である。 98.27~99.53m: 柱状~短柱状コアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。 98.64m: 傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。 98.70~98.74m: マンガンが濃集する。	11 (11)	100																																																																									
							Dg Vg Cg bg																																																																																																										γ																																						99.05~99.10m: 局部的に変化が進み礫状となる。酸化汚染も顕著である。99.10m付近に絹雲母が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化する。	5 (0)	100																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															0	10	20	30	40												50											
101			花崗斑岩	浅黄橙				IV _ε	γ 2		100.28m, 100.30m: 50~55° で幅2~4mmの赤褐色の砂状状物を不連続に挟む。褐色汚染が明瞭である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。100.45m: 25° の低角度割れ目の周辺に鮮やかな緑色の緑泥石が見られる。	96	CM'																													
								III _ε																																		
								B _g			bg																															
								IV _ε																																		
								C _g			V _ε	c _g						101.31~101.43m: 5~20° の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明瞭で、一部局所的に塊状となる。	96																							
								II _ε										101.34m: 傾斜51° で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。	96																							
								B _g			bg							101.43~102.23m: 柱状~長柱状コアが主体で、岩質も堅硬である。	96																							
								III _ε																																		
								C _g			V _ε	c _g						102.23~102.37m: 傾斜50° の割れ目がやや卓越し、102.23m, 102.25mは割れ目沿いの劣化が明瞭である。幅1~5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。	96																							
								IV _ε										2条の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	96																							
								B _g			bg																															
								III _ε																																		
			D _g	V _ε	c _g						103.40~103.55m: 傾斜40~50° の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	96																														
			C _g																																							
			IV _ε																																							
			B _g	bg																																						
			C _g	V _ε	c _g						104.03~104.17m: 50~60° の割れ目が卓越し、これとほぼ直交する割れ目は横断するものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩壁には原岩組織が認められる。	96																														
			B _g	III _ε																																						
			C _g	IV _ε	bg						104.50~104.90m: 斑状の褐色汚染が明瞭である。	96																														
			B _g	III _ε																																						
			に多い黄橙																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N) 値	0	10	20	30												40	50										
			花崗斑岩	にぶい黄橙				bg			105.08~105.80m: 柱状コアが主体で岩質も堅硬である。	18 44 100	CH'																													
											黄橙						2	IIIg			106.31~106.38m: 局所的に傾斜10~45°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	16 40 100	CM'																			
																					Bg						IVg			106.58~106.92m: 斑状の褐色汚染が見られる。	19 42 100	CH'										
				IIg				IVg				106.87m: 30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂~シルトを挟む。	22 100																	CL'												
											浅黄橙					4	VIg	dg		●108.44~109.71m: 礫砕部 108.44~108.63m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い織状構造が見られる。 108.63~108.67m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体で、軟質。上位より変質し灰白色を呈する。幅30mm。 108.67~108.71m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端57°で漸移的に、下端62°で波打って連続。褐色汚染が明瞭で、褐色の軟質な基質に径10mm以下の岩片を含む。織状構造が見られる。幅35mm。 108.71~109.79m: 傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。 109.71~109.90m: 直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。 109.90~109.03m: 砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。 109.41m: 傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は珪化し、にぶい橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。 109.76~109.79m: 傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭である。 109.79~110.78m: 微細な割れ目が密集する所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは密着する。 109.79~110.38m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	5 100																					
				Bg				IVg	bg																																	
																								Cg																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図	孔内水位 / 測定月日	試験					原位置試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																	
															()																																																
111			花崗斑岩	にびり黄緑	Bg	IVg	Vg	111.22~111.59m: 傾斜80~90° 程度の割れ目が複数分布する。 111.57m付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色する。	γ 2	CL'	10 [10]	100	CM'	16 [16]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	15 [26]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100																												
112																																				にびり黄緑	Bg	IIIg	IVg	112.84~113.03m: 傾斜60~80° の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色汚染が認められる。		CH'	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100
113																																																															
114																																				Bg	IVg	bg	114.57~114.76m: 割れ目が発達する。114.60~114.66m間は40° 程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は離~岩片状となる。		CM'	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	11	[11]	100	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ目 の状態	風化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D ⌒ [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チューブ ノット	給 圧 (kN・ rpm MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																										
													(N)	(N)	(N)	(N)	(N)																																					
			+++++	にんじき黄橙	花崗斑岩	IVg		γ 2	115.40~115.54m: 115.46m付近の2条の潜在割れ目を中心に褐色汚染が明瞭である。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著に見られる。 116.30m: 57°で幅5mmの褐色に汚染された砂状挟在物が見られる。 116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。 117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が晶出する。 119.65~119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。	0-100	CM'		標準貫入 () 試験																																									
										bg		22																																										
116																																																						
													cg																																									
			+++++	にんじき黄橙	花崗斑岩	IVg		γ 2	117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が晶出する。 119.65~119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。	0-100	CM'		標準貫入 () 試験																																									
117																																																						
													IIg																																									
													Bg																																									
118																																																						
119																																																						

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態 化 質	変 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 月 日	標準貫入 (N値~深度) 図					原 位 置 試 験 (孔内水平断層)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 回 送 水 圧 (kN・rpm) (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																							
													0	10	20	30	40										50																						
121			花崗斑岩	花崗斑岩	にぶい黄橙	IVg	cg		120.05m, 120.07m: 傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	← (%)	岩 級 区 分		0	10	20	30	40	50																															
																																最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]													
																																					→	100	100	100	100								
																																										100	100	100	100				
																																														100	100	100	100
100	100	100	100																																														
CM'																																																	
																														→	100	100	100	100															
																																			100	100	100	100											
																																							100	100	100	100							
100	100	100	100																																														
122			花崗斑岩	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIIg		120.31m付近, 35°の平行な割れ目が密集し, マンガンを挟む。	← (%)	岩 級 区 分		0	10	20	30	40	50																															
																																			最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]										
																																								→	100	100	100	100					
																																													100	100	100	100	
																																																	100
100	100	100	100																																														
CH'																																																	
																																→	100	100	100	100													
																																					100	100	100	100									
																																									100	100	100	100					
100	100	100	100																																														
123			花崗斑岩	花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	IVg	cg	120.40m, 40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の炭質脈と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。	← (%)	岩 級 区 分		0	10	20	30	40	50																															
																																				最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]									
																																									→	100	100	100	100				
																																														100	100	100	100
100	100	100	100																																														
CM'																																																	
																																→	100	100	100	100													
																																					100	100	100	100									
																																									100	100	100	100					
100	100	100	100																																														
124			花崗斑岩	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIg	bg	120.40~122.54m: 堅硬な柱~長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	← (%)	岩 級 区 分		0	10	20	30	40	50																															
																																				最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]									
																																									→	100	100	100	100				
																																														100	100	100	100
100	100	100	100																																														
CH'																																																	
																																→	100	100	100	100													
																																					100	100	100	100									
																																									100	100	100	100					
100	100	100	100																																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平感器)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																								
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																																			
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙						<p>125.37m付近、局所的に微細な割れ目が密集する。</p> <p>126.34~126.69m: 柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。</p> <p>127.00~127.63m: 不規則で微細な割れ目が発達する。 127.06~127.30m: 軟質でコア表面はザラつく。実質により割れ目に沿って緑色を帯びる所がある。 127.19~127.22m: 傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。</p> <p>128.26~128.76m: 微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。</p> <p>128.90~129.15m: 一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は線状となる。</p> <p>129.98~130.50m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。</p>		CH'																																																						
126																																				Bg IVg	bg																														
127																																				Bg IVg	bg																														
																																				Cg Vg	cg			γ 2																											
128																																				Bg IVg	bg																														
																																				Cg Vg	cg																														
																																				Bg IVg	cg																														
129																																				Vg																															
																																				Cg IVg																															
																																				Vg																															
																																				Bg IIg	bg																														
																																				Bg IIIg																															
			Cg IVg																																																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図																								
				花崗斑岩	にぶい黄橙			bg		130.02~130.42m: 80° の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。		CM'																										
131								cg								130.84m付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。																						
								IVg																														
								IIg																														
132								IIIg									131.54~131.61m: コアの半分が劣化し礫状となる。																					
								bg																														
								IVg																														
								IIg									132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアからなる。 132.31m: 傾斜25° で幅1~2mmの石英脈を挟む。																					
								IIIg								γ 2	132.67m: 傾斜82° の割れ目が分布する。 132.87m: 45° で幅3mmのマンガンを挟む。																					
133								Bg																														
								IVg																														
								cg																														
								IIIg									133.24~133.29m: 傾斜40~50° の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。																					
134			bg							133.90m: 傾斜72° の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。 134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。																												
			IVg																																			
			IIIg							134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。 134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														0	10	20	30	40												50				
							IIg bg			135.28 ~ 135.60m: 傾斜25° 前後の2 ~ 3本の割れ目が2 ~ 10cm程度の間隔で平行に分布する。岩質は硬い。	0 50 100 22 (38) 100	CH'																						
136						Bg	IVg cg			136.00 ~ 136.22m: 傾斜90° の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交差し、割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された挟持物が見られるものがある。 136.04m: 38° の割れ目に沿って幅1cm程度が緑色を帯びた緑泥石化による変質部が見られ、その中に小さな絹雲母が散在する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。 136.10m: 傾斜60° で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で珪化し脱色する。 136.21 ~ 136.22m: 傾斜25° 程度の2本に分岐した割れ目に幅1 ~ 3mmのマンガンを挟む。	0 50 100 9 (6) 100	CH'																						
137						Bg	IIg bg		γ 2	136.61m: 幅5 ~ 15mmで局所的に傾斜30 ~ 40° の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。 137.02 ~ 138.59m: 堅硬な柱状コアからなる。	0 50 100 24 (54) 100	CH'																						
138						Bg	IVg cg			138.01 ~ 138.16m: 微細でほぼ平行した50° 程度の割れ目が非常に多い。幅2 ~ 3mmの灰黄色粘土を挟む。 138.28 ~ 138.29m: 幅10mmで平行した60° 程度の割れ目が密集する。	0 50 100 16 (28) 100	CH'																						
139						Bg	IIIg bg				0 50 100 9 (0) 100	CH'																						
						Bg	IVg cg			139.50 ~ 139.90m: 傾斜70° 程度の微細な割れ目が多い。	0 50 100 9 (0) 100	CL'																						
		92.04	140.00							139.90m: 70° のシャープな割れ目に幅10mmの砂状とマンガンの挟持物が見られる。上端側には平行な割れ目が見られる。挟持物の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。																								

余白

H24-D1-5

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	H24-D1-5		調査位置	X:269.000 , Y:904.800		北緯	35° 45' 12.79"		
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年5月23日～2013年6月11日		東経	136° 1' 3.93"	
調査業者名			主任技師			現代場人	コアア 鑑定者		
ボーリング責任者									
孔口標高	7.03 m	角	180°	方	北 0°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試験機
総掘削長	54.00 m	度	90°	向	270° 西	鉛直 90°	0.0°	エンジン	ハンマー 落下用具
			0°	東 90°	180°				ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	備考	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値～深度) 試験		原位試験 (孔内全等速)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
																			N	値															
										0.00～7.41m : 藍土 0.00～3.00m : 粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10～40mmの花崗斑岩、黒色砂岩などの礫を含む。																									
1																																			
2										にふい黄褐 藍土																									
3										3.00～7.41m : 砂礫 砂礫からなる。径2～5mmの石英粒、長石粒と径5～120mmの花崗斑岩の礫主体で、少量の黒雲母花崗岩、黒色砂岩を含む。砂質礫主体の歪角一帯円礫で、一部半クサリ礫を含む。礫率は30～40%で、7.20～7.41mは20%と少ない。基質は粗砂で比較的よく締っている。7.00～7.20mはルーズで均質な中砂からなる。																									
4										黄褐 灰黄褐 にふい黄褐																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	岩級区分	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													(N)	(値)																							
				にふい黄緑	Eg	Vlg	dg			●10.19~10.21m: 破碎部 10.19~10.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端33°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。 10.20~10.21m: 粘土状部 (Ho-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにふい黄色を呈する。幅4~6mm。 10.21~10.45m: 消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m: 傾斜65°の割れ目を境に色調がにふい橙色から橙色に変わり、岩片も硬さ「D」が多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。 ●10.45~10.50m: 破碎部 10.45m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。 10.45~10.50m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端30°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化した花崗斑岩の破片を多く含む。軟質。灰白~にふい黄色を呈する。幅40~45mm。 10.50~12.00m: 原岩組織と割れ目は明瞭に残留する。傾斜40~80°の割れ目が破碎部とほぼ平行に分布する。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 11.10~11.11m, 11.90~11.95m: 傾斜45~50°の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 12.00~12.61m: 傾斜50~60°の割れ目が数本分布するのみであるが、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で径5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の挟入は少ない。 12.61~14.19m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°の割れ目も多い。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部では砂状化~径5~10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。 14.19~16.18m: 割れ目は傾斜50°以下が多く、割れ目は酸で褐色化するが、砂や粘土などの挟入物はない。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化するが、劣化はない。15.40~15.65mに傾斜10~30°の、15.10~15.40mに傾斜85~90°の低密着割れ目が分布する。	D'	0	50																								
11				花崗斑岩	Dg	Vlg					CL'																										
				明褐灰	Cg	IVlg	bg																														
12				明褐灰	Cg	Vlg																															
13				明褐灰	Bg	IIIlg	bg																														
14				明褐灰	Bg	IIIlg																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・r MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															(N値~深度) 図															
16			花崗斑岩	明褐灰	褐灰	II _g	Bg	II _g	III _g	γ	16.18~16.72m: 上位より若干風化が進み、割れ目沿いの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50~60°の割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。 16.72~17.14m: 傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目沿いの砂状化はなく、粘土脈も挟まない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかに径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。 17.07m: 傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈を挟み、径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。 17.14~18.17m: 上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部が砂状化~径3mm前後で細片化する。粘土脈の挟入は少ない。傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目も分布する。18.05~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。 18.17~18.64m: 風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40~50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。 18.64~18.78m: 18.72mに傾斜35°で幅3~4mmの軟質な灰赤色粘土脈が連続的にシャープに連続する。その上下端部には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布する。 18.78~19.11m: 風化で軟質化し、割れ目の一部は消滅するが、傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土脈は分布せず、粘土脈も挟まない。18.90~19.03m間は周辺よりやや硬質である。 19.11~20.10m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する10~30°の割れ目が見られる。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。 19.56~19.67m: ベグマタイト傾斜65°で幅約100mm。最大径25mmの石英、径20mmのカリ長石などからなる。 19.66m: 傾斜58°の割れ目は連続せず、交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 19.97m: 傾斜80°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	CH	N	0	10	20	30	40	50											
17		III _g																		III _g	CM									
18		Cg																		IV _g		CL								
		Bg																		III _g										
		Cg																		IV _g										
		Dg																		V _g										
		Eg																		VI _g										
19		Dg																		V _g										
		Cg																		IV _g										
		Bg																		III _g										

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) ← → 最大コ ア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	(標準貫入) 試験					室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー リ ン グ	給 水 圧 (kN / r m ² / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													(N値~深度) 図																			
		21		明掲灰	Dg Dg Cg	IVg Vg	γ δ		20.10~20.46m: 傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟入は殆んどない。 20.11m: 傾斜60°の割れ目はマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 20.46~20.85m: 一部に硬質部を含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mの軟質な白~淡黄色の粘土脈を挟むことが多い。 20.65m~20.80m: 割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 20.85~21.43m: 傾斜20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の挟入物も見られない。 21.06m*30°と21.15m*50°の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.33m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜20°の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 21.43~21.50m: 傾斜20~30°と50~60°の割れ目が5~10m間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの軟質な白色粘土がわずかに付着する。 21.50~21.81m: わずかに低密着割れ目が分布する。 21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目は幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟入物が分布するが、全体的には割れ目に挟入物は分布しない。 22.10m: 傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m: 傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm*長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟入物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で糊状ににぶい褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟入物は分布しない。 24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																			
		22	花崗斑岩	明掲灰	Dg Cg	IVg Vg	γ δ		21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目は幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟入物が分布するが、全体的には割れ目に挟入物は分布しない。 22.10m: 傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m: 傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm*長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟入物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で糊状ににぶい褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟入物は分布しない。 24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																			
		23	灰褐	明掲灰	Bg	IIIg	γ		21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目は幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟入物が分布するが、全体的には割れ目に挟入物は分布しない。 22.10m: 傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m: 傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm*長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟入物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で糊状ににぶい褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟入物は分布しない。 24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																			
		24		明掲灰	Bg	IIIg	γ		21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目は幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟入物が分布するが、全体的には割れ目に挟入物は分布しない。 22.10m: 傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.28m: 傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm*長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟入物はない。 23.45m以深はコア表面は風化で糊状ににぶい褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟入物は分布しない。 24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
															0	10	20	30	40												50									
31			+	花崗斑岩	にこい橙	Bg	IV _E	bg	γ			30.20~30.35m: 傾斜30~40°の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	0	CM'																										
																																	30.35~30.57m: 傾斜20~40°の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目に挟在物は分布しない。							
																																		30.57~31.57m: 風化でやや軟質化する。傾斜30~50°の割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密帯割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。						
																																			31.06m: 傾斜50°で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。					
																																				31.42m・35°, 31.52m・45°の各割れ目の下端側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。				
																																					31.44m: 傾斜40°の割れ目の下端側幅10~20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。			
																																						31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主体とする。		
																																							32.14m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅2~4mmが砂状化~径2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	
																																								32.68~32.76m: 上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。
33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																								
	33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。																																							
		33.96m: 傾斜55°の割れ目の上端側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下端側はやや軟質化する。																																						
			33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。																																					
				34			明褐灰	Bg	IV _E	cg	δ	3		33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	10	CL'																								
																																			33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。					
																																				33.96m: 傾斜55°の割れ目の上端側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下端側はやや軟質化する。				
																																					33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。			

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 差 器)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ピ ー ツ	給 回 送 水 圧 (kN・rpm / MPa)	送 水 量 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														0	10	20	30	40											50			
36			+	明褐灰		Dg	Cg	Vg	δ	3	35.08~36.00m: 割れ目の多くは砂状化したり、径5~10mmに細片化するが、粘土部や粘土脈は分布しない。傾斜10~40°の割れ目と、これらに斜交する40~80°の割れ目からなり、同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。 35.25m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.1mm程度の微細な白雲母が多数晶出する。	0																				
						γ			2	35.78~35.90m: 割れ目や低密着割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。																						
						δ			3	35.97m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜55°の割れ目を止めている。幅2~3mmで径1~2mmの細片混じりの黄褐色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 36.00~36.70m: 割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土部や粘土脈の分布は少ないが、35.50~36.60m間には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は傾斜40~60°とこれらに交差する20~30°の割れ目や低密着割れ目が多いが、後者は消滅しかかっているものもある。 36.70~38.71m: 傾斜60~70°の割れ目と、これらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も挟まない。ただし、一部で風化により軟質化し、37.17~37.59m間は、傾斜50~70°とこれらに斜交する20~30°の割れ目で径10~30mmに岩片化する。 38.61~38.71m間は、傾斜70°と20~40°の割れ目が交差し、径10~20mmの岩片に細片化する。																						
						δ																										
37			+	花崗斑岩		Dg	Vg	Cg	IVg	γ	0																					
						δ																										
38			+			Dg	Vg	Cg	IVg	γ	0																					
						δ																										
						γ																								2	37.72m: 傾斜66°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリーブ色を呈する。 37.85m: 傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。と30~38.00~38.13m: 傾斜60~70°と30~50°の割れ目が交差し、径10~40mmの岩片状を呈する。 38.13~38.71m: 一部に硬質部を含む。傾斜60~70°の割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mmの石英脈が平行に分布する。	
						δ																										
39			+	にぶい橙		Eg	Vg	Cg	IVg	γ	0																					
						δ																										
						γ																										
						δ																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																												
															0	10	20	30	40												50																											
41			花崗斑岩	にぶい橙	Cg	IVg	cg	γ	2		40.12m: 傾斜57°の割れ目は、交差する傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。40.23m: 傾斜54°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	1 (1)	CL'																																													
Eg	VIg	dg									δ																					3	40.73~40.85m: 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う塊状化を呈する。割れ目方向に幅2~3mmの軟質な灰白~灰赤色の粘土脈を伴う。	10 (10)																								
					Dg	Vg	cg	δ	40.85~41.08m: 傾斜50~60°の割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。割れ目沿いに風化が進み、全体が軟質化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	10 (10)																																																
									Bg																																																	
Cg	Vg	γ			2	42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。	13 (13)																																																			
				Dg		Vg			cg																								δ	42.23~42.74m: 幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部珪化し硬質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。42.52m: 傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状、ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は挟まれないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。42.74~43.25m: 風化で割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜50~80°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。43.03m: 傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m: 微細な割れ目にマンガンを伴う。	2 (2)																							
Eg	VIg	dg			δ		43.25~43.09m: 風化と変質で著しく軟質化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を脈状、ないし、網状に含む。43.58~43.76m: マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。43.80m: 傾斜60°の割れ目は、上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	1 (1)																																																		
				Eg		VIg	dg		δ																								44.30~44.94m: 硬さ「D」の岩片を多く含む。		1 (1)																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)														
		46	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	dg	cg	δ	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ない。	0 50 100	D'		0 10 20 30 40 50															
		47								45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。																			CL'
		48								45.82~45.89m: 上端58°, 下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土と径5~10mmの一部粘土化、一部硬さ「D」の花崗斑岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の炭素質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。																			
		49								45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。																			
										47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。																			
										47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。																			
										●47.47~47.89m: 破砕部																			
										47.47~47.48m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜65°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。																			
										47.48~47.66m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端65°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅67mm (68°)。																			
										47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシャープに連続。径10~40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」, ないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。																			
			47.86~47.89m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端63°, 下端60°とともに直線的にシャープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。																										
			47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。																										
			48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。																										
			49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													0	10	20	30	40												50							
													標準貫入																							
		51	+						50.63~50.66m: 割れ目沿いに径3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。 50.73~50.85m: 傾斜50~60°の割れ目沿いがやや赤色を帯びる。	10, [10]	CM'																									
		52	+						51.38~51.42m: 傾斜50~60°の割れ目沿いにやや軟質化し、硬さ「G」となるが、粘土化や粘土脈は挟まない。 51.38mの割れ目沿いは砂状化する。 52.17m: 傾斜50~60°でやや波打つ割れ目沿いが幅1~3mmで緑泥石化により緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する。	10, [10]	CM'																									
		53	+						52.75~53.58m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、割れ目に砂状化部や粘土化部~粘土脈は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが、密着度は高く、ハンマーの打撃では分離しない。 52.91m: 傾斜50°で幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部、溶脱部を伴う。	10, [29]	CH'																									
			+						53.58~54.00m: 傾斜20~60°の割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布する。一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目沿いに分離、岩片化する。	10, [24]	CM'																									
	-27.68	54.00	+																																	

余白